青鞜

讀者諸氏に

私は自分で編輯するこの雜誌を、出來る丈け、立派なものにしたいと思ひます。けれども如何に、私が自惚れて見ましても本當に貧弱な內容しか持つことが出來ません。私一個の微力では勿論どうしても讀者諸氏を滿足させるやうな大家の執筆を乞ふことは出來ません。目次にならんだ人達はまだ世間の表に立つてゐない人の方が多數を占めて居ます。私は每號々々かうして貧弱だとかつまらないとか云ふ非難を耳にしながらも何時もねうちのない雜誌ばかり編輯して居ります。けれども私の考へではそれにも相當の理屈はつくのです。私自らはこの雜誌自身に單なる苗床としてより以上の何の價値をも求めやうとはしません、私はこの雜誌を引きつぐ際に、一切の規則を取り去つて無規則無方針、無主義無主張と云ふことをお斷はりしました。主義の欲しい方規則のなくてはならない方は各自におつくりなさるがいゝ。何の主義も主張もない雜誌を凡ての婦人達に提供いたしますから各々に自由勝手にお使ひ下さい。お用ひになる方の意のまゝに出來るやうに雜誌そのものには一切意味を持たせません。と云ふことも其の際に申ました。何卒この貧弱な雜誌を覗く丈けの方でもこの事を御承知下さいまし、この雜誌は苗床としての價値より他には何にもありません。此處に芽を出した苗がどんな處にうつされ、どの苗がどう育つてゆくか——未成品——と云ふことに興味をもつて下さる方に初めてこの雜誌は雜誌自らの存在の意義を明らかにするのです。私はかう云ふ負け惜しみな理屈を楯に何と非難されても相變らず貧弱な雜誌を倦きずにこしらへてゐるのです。

——編輯者——

貳月號

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜

第六卷
第二號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜二月號目次

生物學上より見たる婦人の能力……（飜譯）……一　スコツトニーアリング　齋賀琴譯
兒童の世紀……（飜譯）……九　エレン、ケイ　山田わか譯
色々なこと……（感想）……一九　野上彌生子
小さき者……（小說）……二六　吉屋信子
水仙の花……（短歌）……三九　齋賀琴
最初の家……（小說）……四一　五明倭文子
初戀のなりゆき……（小說）……四七　岡田八千代
生き路……（感想）……五〇　本庄夏葉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

含葉嘯葉……（短歌）……五八　三ヶ島葭
晩秋初冬……（短歌）……六〇　山の井みね子
白山下より……（手紙）……六二　野　枝
更に論旨を明にかす……（論文）……六九　青山菊榮
再び青山氏へ……（手紙）……八〇　野　枝
折にふれて……（日記）……八六　岡田ゆき
新刊紹介……八九
編輯室より……九〇　野　枝

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

生物學よりみたる婦人の能力

――スコット、ニーアリング――

齋賀琴譯

社會の進歩に貢獻する婦人の能力は、生物學からみた婦人の能力――即ち人間種族の生命ある一員としての婦人の能力に關する言葉に依て陳述されるであらう、或は婦人の人格的能力――即ち社會の一個人としてのその能力に關する言葉に依て陳述されるであらう。生物學から見れば婦人は、過去から傳はり未來に移る人間の種族にあつて、一の單位である、人生と種族とは婦人の努力を以て性質づけられる。人格的にみれば婦人は制度と傳習とにとりまかれて居る社會團體の一員である、――彼女が生れた社會の全體の一部としての生命である。

婦人の生物學的、及び人格的の能力の性質は何であらう、生物學から云へば「女性は單に種族を代表するのみか、例證を除外してもなほ婦人は種族である」とフレデリク、ウォードはあらゆる彼の著書のうち最も重要な Pure Sociology の中で云つて居る。故に種族の立場から觀察すれば、婦人は社會の進歩のために特に重要な位置を占めてゐる、故に婦人は種族である、婦人は未來へ移つて行く種族の性質を限定する。(C.W. Saleeby の Woman

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

and womanhood を見よ)。

各時代は新らしく生れて來る――婦人から生れて來る。時代はその時代が發見する社會制度を必らず受取ると同時に、極力その社會制度を改修してその時代の目的を成就するであらう。時代はその時代が屬する種族を代表するある性質を伴つて世の中に來るのである、もし現代の生物學者が誤りないのならば、女性はこれら種族の性質の多くを傳達するものである。

各種族の中には固執されるある固有の性質がある、リプレイの「ヨーロッパの種族」は人種の優劣に關する昔の議論を取るに足らずとしてゐるものゝ、その固有な性質と云ふのは明らかに、種族の群を代表するある卓越れた性質を指示するのである。たとへば吾々チュウトン族の祖先は美しい髪と碧色の眼を持ち身長は高く、そして長い頭を持つて居た。これと全く反對にイタリー人は色が淺黑く、丈が低く、そして圓い頭を持つて居た。これらの表面上の種族の性質は、攻擊、協同の力、民主政治に對する本能のやうな根本的な性質よりも意味が少ないものゝなほ、それらは種族の異つた性質を表はしてゐる。實際根本的な種族の性質は到底計ることも比較することも出來ないが併しその有無はその種族の優劣を決定する。これら種族の性質は表面的にせよ、根本的にせよ、婦人に依て、元始の種族

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に貢献されたものである。この説明の歸結を敢行するためにはいくらかの努力を必要とする。

生物學的生活の最も元始の形式は男性も女性もない永久の無性であつた。細胞は「發芽」或ひは「分裂」に依て增殖した、まだ充分發達しない生活の形式を營む、生物は授胎（女性）と授精（男性）と二つの要素をそれ自身の中に持つて居た、生活のより低い形式の到る處にあつて「女性は結果を造る性である、そして結果を造るものは何でも女性として尊敬されてゐる……生物學者はこの一般の見解から出立した、そして「母細胞」と「處女細胞」とを正しく說明した。故に人生は女性の身體を以て始まり、そして女性ひとりに依て遠い未來に運ばれて行くと云ふことは言語にとつても科學にとつても亂暴ではなかつた……一言にすれば人生は女性として始まるのである、元始から存在する女性の性は變化せずに繼續する、併し元始に於て存在しなかつた男性の性はある時代に表はれたものである………恐らく男性を伴ふよりも男性のない多くの生物がある、

……女性は單に Primary のまた original の性であるのみか、主な本體としてあまねく繼續する性である。男性は………單に自然の後智慧に過ぎない。その上男性は、最初長い間、そして現在も生物のより低い階級の到る處にあつて授精の作用、（卽ちそのために男性が創

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

造されたのである)、のために專ら貢献する。下級動物の多くの中では男性は只授精するばかりである。」(Woman and Womanhood 313—14)

か樣に生活のより低い階級の間では女性は獨り創造物である。暫らくたつてから兩性具有の生物は單性に變つた、併しなほ女性は支配權のある原動力であつた、………「昆蟲仲間では一般に男性は女性よりも小さい………自然界には種々の階級に屬する多くの種や屬がある、それらの中にあつて常により小さくそして一層弱々しい男性は、食するために如何なる官能の器關も備へず、また生活の途中にある幼蟲の時代に於て食物を貯へる時代以上に生命を支持する事が不可能に思はれる程不完全に發達した」(同上217)。生活のより低い樣式に於て、女性はその名譽に於ても權勢に於ても單獨である、生活のより高い發達した樣式にあつては、男性は女性よりもより大きくより強い事が表はれてゐる、併し此處でさへも女性はなほ種屬である。男性は生活の範圍内に這入つた、彼はより大きくなることを妨げられぬ、よりすヾしい聲音と美しいコートを持つことを妨げられぬ、併し自然が種族の保存を要求するものは女性である。

人間種屬は女性が元始の性質を一般に支配したと云ふとに對して異議を唱へない。「各時代毎に全人類は丁度ある鑄型を通るやうにその時代の女性の身體を通過する、各時代の上

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

にこの女性の鑄型の抹殺されない記號を印して再現する……未だ超れてゐない婦人の智識力、生理上の力、情緒の深さは連續する各時代を以て人間種類の展開の範圍を制限する、」婦人は生物學からいへば權力者である。婦人は種族である。種々な種族の成功や幸福はその種族の婦人の成功や幸福と共に現はれるのではないか？

種族の發達に對する婦人の貢獻の中に若干の重要な要素がある、それは極めて明白に表はれてゐる。

一、婦人は男子よりも種族のタイプに近い。

二、婦人は男子よりも專問的でない。

三、婦人は生物學上男子よりも保守的である。

これら三つの有力な說明は、吾人が卓越した男子と卓越した種族の生物學上の價値を硏究するためにはまづ第一に婦人を觀察しなければならない事を勿論證明するであらう。

種族のタイプとは何であらう？進化の發達は大きな頭腦、小さな顏、圓い體幹、弱い足と纖弱な骨を持つてゐる Human creature —— 人間の赤子に依て殆ど完全に代表されて居る毛の生へない動物——の方に働かれるやうに思はれる。成人した男子は人類のタイプから遙かに遠ざかつてゐる。出來上つた進化と進化の完全とを同じものであると假定するの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は大なる誤りである。事實、成熟した人間の男性は生物學から「凋殘か、もしくはもはや役に立たない人間である」(Adolescence, 561)この老年は只成熟と伴つて來るものである。違つた種族の子供の智識力の間にはわづかの明白な相異がある、併しそれからの種族の成人の中には著しい智識の相異がある。(Man and woman 445—7)更にまた天才の人々は子供のタイプに多い、「ギリシャ人はいつも子供であつた」そして彼らの間にはよく天才があつた。か樣に子供のタイプは種族のタイプである、そして明らかに有機的進化の目標を代表する。

そして婦人は？婦人は著しく子供に類似して居る。「婦人は男子よりも高い程度に人間の特殊な性質を表はしてゐる、…………婦人は、男子が近づいて行く處の人間のタイプを男子よりも精密に代表する。」種族のタイプを握つて居る子供は人間種族の發達のたしかな系統の徵證を與へる。きわめて非專問的であつて、そしてこの理由から、子供のタイプに近い婦人は、一層種族のタイプに近い、そして未來の種族發達のタイプを一層多く表はしてゐる。

種族の立場から種々に陳述すれば、婦人は男子よりも專問的でない。もし一定の標準を表はす一の線をひく事が出來るならば、婦人は男子よりもこの線から遠ざかつて居るであ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

らう。婦人の中にはより僅かな天才とより僅かな不完全な人とがあるであらう。婦人の發達の度は左程高くない、即ち善いにせよ惡いにせよ人間を性質づける特殊な性質をより少なく持つてゐる種族のタイプにより近いのである。(Man and Woman)

婦人はあまり專問的でないために一層保守的である。即ち彼らは過去に執着する傾向を一層多く持つてゐる、そして新らしい方面に發展する傾向を多く持たぬのである。ハヴエロックエリスは「一般に女性としての婦人は不屈と保守主義との有機的な傾向を持つてゐる」と云ふ觀察を下して居る(Man and woman 429。)男性の變化をある程度まで論じたあとでウォードはかう云つた、——「女性はか樣に變化する事が出來ない、彼等は生物學上の組織の重力の中心を代表する。彼等はギョーテが言說したやうに永久の頑固な力である」(Pure sociology 322—3)。ジヨウジ、スタンレーホールは「婦人は氷河の上に降り積む雪の新らしい層のやうに、連綿としてつゞく時代に依て獲得されるものを保養するために貢獻する、…………婦人の心は男子の心よりも一層多く特に遺傳の器關である」(Adolescence G. Slanley Hall)と云ふブロックの正當な言葉を利用した。婦人は種族の性質を保守し、そしてそれらの性質を遺傳を通じて未來の時代へ移して行く。

進化論の立場から見れば女性は必然に種族の性質を代表する。「母性の半數の生命の器官

がおしなべて劣等である種族は生き殘る事が困難である」（Man and Woman, Havelock Ellis）消極的に考へればこの事柄は實際である、女性の支配が無ければ種族の發達は不可能になるであらう。積極的にみれば婦人は「人間の曲折した道程の頂上にある（この曲折した道程から未來のより高い超れた人が生ずる）……婦人の全靈魂は意識的にも無意識的にも遺傳の偉大な機關として最もよく考へられる。」（Adolescence. G. S. Hall）

重ねて私達は「婦人は種族である」と云ふ、婦人はあまり專門的ではない、そのためにより種族のタイプに近い、より多く種族のタイプを表はして居る、そしてそれ故に彼女が屬する種族の性質を未來の時代へ移そうと用意する。元始の婦人に對して種族は種族の生物學上の發達を要求したのであつた。彼女がそれを望むか望まぬか何れにせよ、彼女が男性よりも寧ろ女性であるために、責任はその肩にかゝつて居る。彼女は過去から發達し、そして傳はつて居る性質を保守する。彼女はそれらの性質を未來へ傳へるために、男性より多くの準備をそなへてゐる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

兒童の世紀

エレン、ケイ著
山田わか譯

第二章

未來の子供と婦人の勞働(二)

勞働階級の婦人は苦痛並びに危險に堪へて行かなければならぬ。そしてこの苦痛この危險に堪へるには一致共同が必要であつて、而してこの一致共同が含蓄する力、則ち、制裁に服從しなければならない。この條件のもとにのみ、男子も女子も、一方に於ては彼等の聯合により、又一方に於ては、今日益々認められて來た原則、則ち、社會は立法によつて其の社會員が勞働すべき條件を定める能力をもつて居ると云ふ原則の延長によつて、彼等の位置を向上せしむる事が出來るのである。かくの如くにして始めて、より健康な、より强壯な、より美しい、人類に耻ぢざる人生と勞働の條件がつくり出されるであらう。この絕ざる進歩のうちに社會の凡ての部分は他のあらゆる部分と關係して行くのである。

組織のない、普通の、其のために又安い賃銀の婦人勞働は男子の賃銀を安くし或は男子の仕事を奪ふ。又、工場の仕事は母の義務としての家庭の仕事に婦人を不適當とする。工

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

場の混雜、熱氣及び繁劇促急は婦人の神經を破壞し、それと共に彼女等の細やかな情緒をもほろぼしてしまう。彼女等は家庭生活に主要な力と心情を失つてしまう。婦人達が惡い條件のもとに居る事は男子のために結婚を困難ならしめる。そして獨身生活の結果、男子の死期は早められる。勞銀の安い事と、仕事のない時があると云ふ事は衞生に害あるやうな衣食住となる。困憊した貧弱な婦人が夫の稼ぐ僅かな金で適當な衣食をとゝのへる事は出來ないと云ふ事になる。そしてこゝから、あらゆる疾病と不節制は始まるのである。これ等の原因と、それから上に述べた原因とが連結して工業地方の人口は、共和政體のスイツルランドに於ても壓制主義の露西亞に於ても、同じやうに廢頽して行くのである。

多くの場合に於て、かくの如き缺陷多き勞働狀態は家族並びに獨身婦人にも影響を與へずには置かない事は事實である。兒童勞働の制限も亦直接家族に不都合を來す。けれどもこれは一時的の困難である。あらゆる方面の進歩がどの方向に向つて居るかゞ明瞭になれば其の困難はすぐ救濟さるゝものである。とにかく、こう云ふ種類の進歩は之字形(ジクザク)に進んで行く。自由を一時制限する事が進歩になるかならぬかは、人が、個人又は小團體を離れて社會全體に目を轉じ、そして、社會が其の制限のために利益するや否や、又未來に於て其の制限があらゆる自由と幸福の増加になるや否やを發見し得るや否やによつて定まるの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

である。

勞働以外の話で、たとへば、競技なぞの場合に於てすら、競技者は一定の規則によらねばならぬと云ふ事が通則である。けれどもこの通則は、人生と云ふこの慘酷な競技に我々は應用する事が出來ない。我々は我々自身の意志をもつてこの競技の中に入るのではない。子供は兩親の誤解や過失のために受けねばならぬ苦痛を避ける權利をもつ筈である。兩親の不調和な結婚の場合に子供は如何にして其の苦痛を避け得るかと云ふ事は各個人の問題であるから、各個人別々な解決法を考へなければならない。既に前にも述べた置いた如く結婚をする動機、結婚期及び年齡に就ての習慣の變化が子供に對する最も確な保護である。この子供の保護は年を逐ふてぜん〳〵と擴張されて行くであらう。女性の一人としての義務を嚴肅に自覺する事によつて次に擧げる事柄は若き既婚婦人の罪惡として認められるであらう。則ち、それは、過度な勉强、又は過度に遊技にふける事、又容姿をつくるため、窮屈をしのんだり、過度に糖菓をとつたり、烟草及び强い刺戟物を用ひたり、夜ふかしをしたり、過度な勞働をしたり、其の他數限りなき仕事によつて自身の肉體を虐遇する事である。これ等の美しい馬鹿者は自然に對して大罪を犯して居る。遂には自然がその忍耐を失ふ迄彼等は其れを續けて居るのである。

故に法律の保護なき婦人が知らず〳〵の間に犯す、女性としての本來の性質にそむく行爲を法律は制裁しなければならない。

この保護法律をつくる事が、婦人解放運動のうちで最も大なる仕事である。これに比較すると他のあらゆる運動は殆んど要用なものではない。この點を見逃して居るから、現今の女權運動者は人數の進歩に反對して働いて居る。けれども彼等は、自分では、全體としての婦人問題を解決する唯一の方法は社會の改革を通してであると斷言する人々に向つて、反動的と云ふ言葉をあてはめて居る。が社會革命には保護的法律が一個の重用な要素である。

他の多くの人と同じやうに私の考へ方では、國民にとつて貴重なものは婦人ではなく母である。であるから社會が母の作用を保護する時に社會は其の最高度の幸福に達する事が出來る。母の作用は出產又は幼兒保育の業にのみ限られて居るのではなく、それは敎育期の全體を通じて續くのである。未來の新社會に於て男女が平等に勞働する場合に（子供、病人、老人を除いて）人々は母の作用を重大視するであろう。そして彼等は凡ての母に、一定の條件及び或る制裁のもとに、何年間か何人かの子供のために敎育費として社會から給與を支出する事を必要と認めるやうになるであらう。子供が母の手を要する間は、母は

其の給與を受けてそして其の間は家庭外の仕事にはかゝはらないやうになるであろう。勿論或る理由のもとに、彼等の子供の養育及び敎育に自身を捧げる事の出來ない母もあるであろう。そう云ふ母は例外であるし、又彼等は彼等自身の生産的事業によつて自分の代りの人を雇ふ事が出來る。とにかく、大多數の婦人のためには、上述の提案が疑なく、今、不解決に惱んで居る諸問題の本當の解決であろう。社會の進歩は、家族の扶助者として父を見る舊い理想には最早固執して居ないであろう、各人は彼自身に就てのみ心を勞すべきだと云ふ新しい概念がせん／＼と地盤をかためて行く事を私は望んで居る。父たる人が、家族の扶助に壓迫されて居ない時、しかる時に彼は始めて本當の意味の敎育者になる事が出來る。而して婦人も亦一家族の母として、男子にたよらずともいゝ事になる。たよると云ふ事は未婚時代に自身の生活費を得て居た婦人にとつては少なからざる屈辱である。社會のために母が背負はねばならぬ大事業、則ち、新時代の保育に付いて人々が考へるならば彼等は母長政治（Matriarchy）のこの新しいかたちに歸へらねばならぬ。多くの場合に於て家庭の外に勞働する既婚婦人は次のやうに云ふ。彼女等の幸福は安靜に家庭を處理し、自身の子供を世話する事であるが、併し夫から獨立するためには一定の收入を得ねばならぬ。と婦人運動の特別機關なる、スイデンの一新聞が二年前に既婚婦人の生産的勞働の研

究をしたが、其の解答は新聞の豫期に反して、皆一致して居た。則ち、婦人が家庭を外に勞働する事によつて、如何なる危險が子供に伴ふか、又家庭の滿足が如何にみだされるか、と云ふ事であつた。青年の殘忍性が增加した原因に就ての公平な研究は次の事を明瞭にした。諸國に於ける青年の罪惡の速なる增加は、一部分はあまり年少のうちから勞働に從事する事、一部分は母の家庭を外に勞働する結果、幼少の時代から家庭生活を缺いて居たからである。

もし社會が、子供の出生は續けられねばならぬ事及び家庭は一般に子供の幼年時代の敎育に最上な場所である事を認めるならば、現在の家庭外に於ける婦人の勞働の結果を悲觀しなければならない。そしてかくの如き婦人の勞働を禁止しなければならない。母を彼女の子供及び家庭に呼び返すやうな社會秩序の計畫及び敎育の綱領は他の如何なるものよりも緊急な仕事である。

現今の資本主義的產業組織に歸因する有害な分裂した結果を癒すための博愛主義のあらゆる盡力は無駄な努力である。婦人は家庭の外に勞働する事によつて直接間接に次の時代の活力を削いで居るが、其の削がれる活力の百分の一も、彼等の貴き盡力になる託兒所、幼稚園―食事をも用意する―其の外病院、ペクーシヨンホームは償ふ事は出來ないのであ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

る。

子供を養育する集合的制度をつくる事によつて家庭生活の問題を解決しやうとして居る幾人かの人々がある。丁度、酒造、ぱん燒、屠殺、或は蠟燭製造、裁縫なぞが漸々家庭内の仕事でなくなるやうに、料理、洗濯、つくろい物のやうな家庭の仕事の大部分も遂には電氣或は機械を用い集合的の勞力によつてとりはこばれるやうになるであろうと私は信じる。けれども人生の內部關係及び私生活の習慣が深く影響されるあらゆるものに、無人格な一樣的な集合的行爲が應用される傾向に、有人格、則ち、個人主義的傾向が打ち勝つであらうといふことを私は望んで居る。鞏固な家庭生活が眞正な幸福及び人格の發達の基礎として認められるであらうといふことを私は望んで居る。野蠻時代の遺物なる今日の家政の方法—買物籠、臺所道具、擦り刷毛等—は凡ての家庭からなくなつて、そして電氣が室內を溫めたり其の他あらゆる家事をとりはこぶやうになつても猶婦人の家庭の仕事は絕へはしない。家庭が兵舍のやうな方法をとらない限りは、如何なる完全な裝置をしても或は又共同の方法を用いても絕對に婦人の手を待たないと云ふわけには行かない。召使を置くと云ふ習慣は近き將來に於てなくなる事であらう。何故と言ふに雇はれる人はだん〳〵となくなつてしまう。故に凡ての婦人は自身で家事をとらねばならぬやうになる。或は旣に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

亞米利加に於て工夫されだやうに何時間いくらと云ふ家内的勞働者を供給する局が設けられねばならぬであらう。倫敦にも亦現在この家內的勞働者の組合が出來て居る。そしてこの勞働者は一定の組織ある條件のもとにこの勞働に對しての訓練を受けるのである。雇ひたくも雇はれ人のない國に於ては妻計りでなく娘等迄も農業に從事しなければならない。これは若き娘等が家庭外の仕事に走らうとする傾向を止める自然の制裁である。この制裁がなかつたなら彼女等は都にむらがり行き、都は彼等で充滿するであらう。

最後に、婦人が或る仕事の練習に又は或る研究に五年、十年を費した後、結婚のため其れを捨てる事によつて起る經濟上の損失を我々が今考へるならば我々は近代婦人勞働の結果を愼重に研究しなければならない事は明白である。そして今日のこの社會組織に對する贊否を定めなければならぬ。婦人自身の見地から、兒童の見地から又男子の見地から最後に生產の見地から、社會は婦人勞働の狀態を變更しなければならない。このまゝの狀態を續けるならば家庭生活の分裂は益々殖へる計りである。社會は勞働と生活の樣式に變化を與へるか、或は兩性の墮落を見るかどちらかである。

どの時代よりも現代が最も其の勢力を示して居る博愛事業は、唯、下水渠の口もとで香のある燻煙をあげて居るやうなものである。この燻煙は下水渠から傳播する病菌を防きは

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

しない。そして通行人のために周圍の空氣を一層たへがたきものにしてしまう。

自己保存の本能なる利己主義は、社會の指導者等に彼等の行爲を社會の見地から定めさしむる事によつて、自ら消滅してしまうであらう。しかる時に婦人問題は人道問題となるであらう。そして婦人問題の首唱者等は、子供のためにも男子のためにも有害な狀態のもとに、婦人が勞働する事は、婦人のためにも永久の損害である事を悟るであらう。そして又彼等は婦人の獨立と云ふ名に於ての要求は『最上の權利は最上の不公平である』と云ふあの古い格言によく符合して居る事を知るであらう。婦人並びに全人類が生理的に荒廢するやうな狀態のもとに婦人が勞働する事によつて、決して正義は得られはしない。他の關係に於ては、婦人は自由選擇をする能力をもたねばならぬ。又其の自由選擇を利用し得るやうに充分敎育されて居らねばならぬ。けれども資本が婦人の勞働力を利用する事によつて流す弊害に對し、保護を缺いて居る無數の婦人を擁護すれば其處に始めて正義は得らるゝのである。

婦人が或る勞働界から男子を逐ひ出し、そして未婚婦人が既婚婦人を勞働市場から逐ふと云ふ事は、階級爭鬪の歷史及び婦人運動の歷史が現して居る大なる敎訓である。全速力をもつて進步して行く亞米利加に於ては既に未婚婦人のうちにこの目的をもつて創立され

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た團體がある。これは自由競爭の組織に屬する現象であるが、この自由競爭は『現代に於ける重なる思想、則ち彼自身の職業を選擇する個人の權利』が創造したものである。恐らくは、婦人と婦人の間に鬪爭が世間の通則となつた時に、女權の主張者等は、婦人勞働の問題は彼等の想像して居たものよりも複雜である事に氣付くであらう。彼等は、今日迄、この問題を唯婦人獨立の權利の見解からのみ見て居つた。が彼等は一致共同の感情から離れた個人主義は、社會の鬪爭、階級鬪爭、兩性の間の、既婚者と未婚者の間の及び青年と老人の間の爭ひになると云ふ事を理解するのであろう。そして社會の全體を變更する事によつてのみ、婦人は他の個人則ち子供の權利を前以て、侵害する事なく彼女の充分な權利を享有し得る事が明瞭になるであろう。

女權主張者等がこの意味を悟る事が早ければ早い程利益である。保護的法律に反抗するかはりに彼等は其れを擁護しなければならない。勞働組合(ユニオン)や同盟罷業を疎んずるかはりに、彼等は職業婦人が組合を組織する事を援助し、又同盟罷業が正當である處には其れを支持する事につとめねばならぬ。(つゞく)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

色々なこと

野上彌生子

一

冬になりますと、私は家の人達から色んな仇名を貰ひ出します。熊だの、むぐらもちだの、お婆さんだの、猫だのと、一寸數へて見ても三つ四つあります。これ等は言葉はまち／＼だけれども、すべて私の寒がりな事、風邪を引くまいとしてどつさり、なりもふりもなく着ぶくれて冬を暮らす事を意味する點に於て一致してゐます。全く私は寒さには意久地なく負けてしまひます。惡くすると秋の末から、春、可なり暖かになるまで、一度引いた風邪をぶら／＼持ち越して暮らす事さへあります。やつとよくなつたと思つて風呂に入ります。すると翌けの日からまた元へ逆戻りをしなければなりません。止むを得ない用事で外へ出ます。而してあゝ寒いな、と思ふような事があると、直ぐです。歸つて直ぐ寢て仕舞はなければならないのであります。毛穴に垢のたまつた白い腕をぢつと見ながら、臥せつてゐますと、妙に悲觀させられます。それ故私はこの近年空氣の冷たい間は決して外出しない事に極めてしまひました。平生でも一年中數へる程しか家の外に出ない私には、それも大した困難なしに實行する

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

事が出來てゐます。それで又一つ仇名を貰ひ出しました。アタナシアディスと云ふ仇名がそれであります。

　このアタナシアディスと云ふのは、エドモン・ド・ゴンクールの『ラ、フオースタン』の中に出て來る隱者のような希臘人のお爺さんの名前であります。而してこのお爺さんの名前が私に結び付けられたわけは、南歐生れのこのお爺さんは巴里の空氣の冷たいのを厭うて、寒い間はちつと假寓の二階――元は寫眞屋だつたとかで天井が硝子張りになつてゐる妙な二階――に、それも硝子板と硝子板の間を張りつぶして引き籠つてゐる程の寒がりなところが、私に似てゐるからなのであります。ところでそのお爺さんは色んな讀み物の中に出て來る私の友達のうちの一人でありますから、熊や、猫や、むぐらもちの仇名の方は仕方なしの苦笑を持つて頂戴してゐる私も、このお爺さんの名前だけは、有難く、光榮に思つて甘受してゐる次第であります。それ故私はこのアタナシアディスの面白い生活の一端をお話し致さうと思ひます。

　話はラ、フオースタン――佛蘭西座（テアートル、フランセー）の女優――がセント、ビユーヴの紹介狀を持つて、そのお爺さんを訪ねて行くところから初まります。ラ、フオースタンは妹のマリイと一緒に馬車で出掛けます。

　『バテイノオユ、ルウ、ド、レエヴイの三十七番。』

姉が馭馬にこんな命令をしますので、
『バテイノオユなんて。一體バテイノオユへ行つて何を見るの。』
と妹は不思議がつてゐます。彼女は姉ほどの深みのない、しかし姉に劣らず美しい蝶々のような若い女であります。
『當てゝ御覽。』
『一ルイ出して占ひ者に見て貰ふの？』
『大違ひよ。とても當りつこはないわ。』
ラ、フオースタンは子供のように笑つて嬉しがります。そのうちに三十七番地についたので、二人は馬車を下ります。而して妹がこんな下宿屋に何んの面白い事があるのだらうと思つて、ぶつ〳〵云つてるのを、知らぬ顏をして、ラ、フオースタンは這入つて參ります。而して階段を上つて左側の部屋の戶口を順々に數へて、七番目の戶口の前まで行くと、立ち停つて叩きます。
すると重い足音が聞えて、戶が少し開きました。而してその空間から大きな鍵鼻と、長い白髮と、その上に金の縫取りをした小さい帽子を冠つた顏が覗きました。が二人の美しい婦人を見ると、
『これはお間違ひで御座いませう』
とそのお爺さんは慇懃に云ひながら、室內の方をふり向いて、何か、しつ、しつ、しつ、と叱つてゐます。
『いゝえ。あなたはアタナシアデイスさんでゐらつしやいませう。』と云つて、彼女は紹介狀を見せました。

『左樣でしたか。ではお這入り下さい。が、私の小さい友人達のために、どうかそつとゐらつして下さい。』

二人が這入つて見ますと、元は安寫眞屋の撮影室かなんかだつたと見えて、天井が非常に高くなつてゐます。而して部屋一ぱいに小鳥が放ち飼ひにしてあつて、チューチュー啼いたり、飛び交つたり大騷ぎをして遊んでゐるのであります。

『まあ、何んて可愛らしいんでせう。』

妹は叫びました。それからすぐ着物の上に手をやりながら申します。

『たゞ、こんないやな物を落すのが困りますわねえ。』

斯うして小鳥がゐるのですが、部屋は古い女中部屋のような恰好で、裝飾物と云つてはパルテノンのパアレリーフの漆喰細工が三つ暖爐の飾り棚に置いてあるきりであります。白い伊太利の皮紙で裝釘した書物のぎつしり詰まつてゐる長い棚が、高く四方の壁に添うて走つてゐます。一方の隅には戶の半分開いた食器棚があつて、その中には漬け物の這入つてゐる色んな瓶と、卵を一杯入れたどんぶりが見えます。部屋の中には藁の寢椅子がたゞ一つあるきりであります。それも目に立たぬ隅つこの方に置いてあつて、架臺で支へられてゐる板の上には、土耳古のタペストリーで蔽はれた小さい布團が伸べられてありました。夜になるとお爺さんは其處に丸寢をするのであり

ます。

部屋は小鳥の匂ひがしてゐます。

『どう云ふ御用事で御座いませうか。』

そのベットの上に、二人の婦人を招ずると共に、主人は斯う申しました、それでラ●フォースタンは彼女の來意を述べます。それは斯う云ふでありました。今度佛蘭西座でラシーヌの『フエードラ』を上場するについて、彼女がその女主人公のフエードラに扮する事となりました。いろ〳〵研究して見ますと佛蘭西語の『フエードラ』だけでは滿足されない。どうしても希臘の原作を聽いて見度いと思ひ立つたので、お友達のセント、ビユーヴに相談いたしますと、それならあなたの許へ伺ふのが一番だと云はれまして、お訪ねいたしたわけで御座います。どうか私のためにユーリピデスの『フエードラ』を朗讀して貰へますまいかと頼みました。と、お爺さんは直ぐ承知致しました。而して自分の椅子を本棚の前に引つ張つて行つてそれに乘つて高い棚のまん中から一冊の書物を大事に取り出して、

『これは神聖なホーマーです。』

と、一寸とラ、フォースタンに見せて、今度はその隣りの一冊を拔いて下りて來ます。而して大きな眼鏡をかけて、暫く恍惚としたように天井を仰いでゐましたが靜かに頁を開けて讀み初めました。するとラ、フォースタンが急いで遮りました。

『アタナシアチスさん。失禮ですが下に馬

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

車が待つてゐますから、もし御本を持つてゐらして下さいますなら、御一緒に御飯を頂きに參りませう。他のお客様はみんな斷りますの、そして今晩は私達つきりで面白く過せますわ。』

すると

『夫人（マダム）』とお爺さんは答へます。『それが私に出來ます事なら、又あなたのお望みとあれば、非常に喜ばしいのですが、ね、私は九月から五月の末まではこの部屋の囚人なのです。又あなたには斯うして周圍に小鳥を飼つてゐる樂しみが、とてもお分りになりませんでせう。その間中は外出は嚴禁なのです。お國の冬の空氣は私を殺して了ひさうですからねえ。』

斯う云つてお爺さんはその招待を拒絶して朗讀を初めます。時々、

『マダアム。ラシーヌには此處が脫けてゐますよ。』

とか、

『こゝのラシーヌの譯し方は拙いと思ひますね。』

とか云ひながら。ラ、フォースタンは熱心に敬虔な態度で耳を澄ましてゐます。しかし妹の方に取つては、こんな事は稍迷惑なお招伴なのであります。そのうちに日が暮れました。お爺さんは小さいランプを灯して尚朗讀を續けましたが、科白の受け渡しの度に二人の女の頭の上に懸つてゐる時計の方を見あげました。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『お疲れぢやございませんか。』
ラ、フォースタンがそれに氣がついて申しました。
『いゝえ、疲れやしませんがね、私は國風を守つて、巴里の交際社會よりかずつと早目に食事をする事になつてゐるのです。』
『あゝ、なる程、食事の御時間で御座いますねえ。』
　それにしてもラ、フォースタンは聽きかけたものがお仕舞ひまで聽き度いのでした。
『アタナシアヂスさん。どうか私共にお構ひなく召上つていたゞきます。その後で又伺へますから。』
『ですが、私は食事を持つて來らせるのぢやありません。手料理なんです。それも極く簡單ですみます。或る程度まで私はヴェネチアのコルナロォ派なのですからね。卵子と、乾魚と、黑橄欖の實がまあ私の主な食物です。あなたのゐらつしやるところから、私の冬中の食料部屋が見えます。』
　ラ、フォースタンは立ち上つて食器棚へ行つて見ます。而して小娘のような好奇心を以つて瓶を次ぎ〳〵に取り出しては、子供らしく灯りにすかして見て、又暗い所へ置きました。
『燐寸のような乾物がどつさりなんですわねえ。』
『そりや Tyiros ですよ。それを食べる時にはラキを飲むのです。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『あなたはおや肉つてものはてんで召し上らないのですの。妙ですわねえ。あら何か知らひしこがありますよ。これは上等だ。毎日〳〵極りきつた卵ばかりで、長い間にはお飽きになりませうねえ。』

こんな事を云ひながらラ、フォースタンは洗濯女のように派手な着物の裳をからげたり、ピンで裾を留めたりして支度をしました。而して冗談のような調子でその仲間へ申します。

『今日は私達があなたのお料理を致しますの。ひしこのオムレッつてものを、あなたは屹度御存じないと思ひますわ。それを拵へるのは私は誰より名人なんですよ。まあ私達の白い手で拵へたのを一つ召上つて下さいましな。マリーや、そのお鍋を貸しておくれ。アタナシアヂスさん。あなたはどうぞすぐ炭を下さいな。』

アナタシアヂスが氣の毒がつて、まごまごするのも頓着なしに、ラ、フォースタンはこんな調子で快活に戯れながらオムレッの料理にかゝります。

『アタナシアヂスさん。ねえ私がどう云ふ風にこれを反すか御覧なさいましよ。一、二、三、おつと旨い。おいしそうな色ぢやありませんか。下の方はふつくらしてますわ。さあ、マリー、食卓の用意をなさいよ。』

今までにない今宵の賑やかさに、小鳥の群れは眠らないで、みんな飛んだり、しやべつたり大騒をしながら、その饗宴の上を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

往つたり來たりいたしました、二番目の皿は橄欖でありました。それがすむと又ユーリピデスの朗讀が續けられました。

每年寒くなつてその希臘人のお爺さんの名が私の仇名として使用される頃となりますと、私はよくこの老人の世離れた閑雅な生活と、小鳥と、その風變りな一と夜の饗宴を思ひ出します。而してその饗宴は如何にも小さく、簡單で、皿の數も乏しかつたけれども、ラ、フオースタン姉妹のお料理で、そのお給仕で、且つそんな可愛らしい小鳥の伴食と音樂との中に催されたと云ふ事は、どんな貴人にも望めない事であります。私は思ひます。アタナシアヂスお爺さんのそのその食事は、恐らくその晩の巴里のどこの晩餐會よりかも、贅澤な豪奢な、ものであつたでありませうと。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

小さき者

吉屋信子

——小さき子の一人を惑する者は挽臼をその頸に懸られて海の深に沈められん方なほ益なるべし——（馬太傳、第十八章の六節。）

ふさ子が生れた時、お母さんが産後の病氣のためにお乳が出ないので田舍の百姓家に里子にやられたのでございました。

ふさ子が七ッの春、里親の許から生みの親の家へ歸つた時には、ふさ子の見知らなかつた弟や妹が幾人も居りました。

自分で生んだとは言へ、赤ん坊の時から七年の間遠くへ離して居いた子供が戻つて來たといふことは、お母さんの胸には、ふさ子に對しての何の愛情も起きなかつたのでございます、まして幼ない妹や弟たちは不思議な顏をして圓らの瞳を見張り、ぢろぢろと、この不意に家庭に飛び入つた年上の女の子を見つめるのでした。

ふさ子は、血肉のほんとに續いた人々の中に交つてゐながら、幾日たつても冷い周圍に、たゞ（ひとりぼつち、）で居らねばなりませんかつたの。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

寂しい痛ましい現實は、かくして日々ふさ子を苦しめ辛なんだのでございます。その結果は、いつとしはなく、ふさ子は沈鬱ないぢけた子となつてしまひました。

「まあ、ほんとに、ふさ子は妙にひねくれた可愛げのない兒だよ。」

と彼女のお母さんは申しました。

ふさ子は、その年の四月に尋常小學校の一年生になりました。

生れて始めて學校の門をくゞつた幼ないいぢけた沈鬱なふさ子は敎室の中では、お行儀がようございました。しかし先生が「笹島さん」とふさ子の苗字を呼んで黑板に書れた字を指したり問を出した時に、ふさ子は顏を眞赤にして、どきまぎして何を言ふことも答へることも出來ず、ぼんやりと突き立つたまゝなのでございました。

もう、その頃ふさ子は空想を描くことに依つて限なき慰安を求めてゐたのでした。寂しい幼き女の兒は幻の世界を自ら形作つて其の中に逃れたのでございました。その子の眼に耳に、どうして先生の姿や聲が入り得ませう。先生がいくら叱つて鞭を與へても、みなそれは徒勞でございました。

先生が敎壇で熱心に敎場内の小さい生徒の焦點となつて黑板の前でお話をしてゐる時、小さき異端のふさ子は、たゞひとり空想の境地に身も心も委ねてゐるのでございました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

先生は二宮金次郎のお話を一心にして居る時、ふさ子は、あの町を離れた遠い野山を思ひ浮べてゐました。ふさ子の眼の前には、青い草の生えてゐる廣い野原があります、何か草の上には小さい可愛い花が咲いてをります。空には長閑に雲雀がぴよぴよと囀づつてをります向ふの方に藁屋根が一つ見えます。軒には赤い椿の花が咲いてをります。その家はふさ子が七ッまで、そだつた懐かしい家です。その軒の樹の赤い葩が散つて土の上に落ちます。その花の梢の下には、小さいお煙草盆に髪を結んだ女の子が藁草履をはいて、すたすたと歩いて來ます。その女の子はふさ子自身の幼なき姿なのでございます。ふさ子の田舍に育くまれた返らぬ日の追憶はかくして、――甦りました。

赤い椿の木の下――風に散る椿の花――いつの間にか多くの子供らは集まつて來ましたふさ子もその中に居ります。

小さき子等は笹の小枝を山から折り取つて來ました。そして地に落ちてゐる赤い葩を笹の枝にさし貫すのです。幾つも幾つも子供らは拾ふては笹にさしました。そして間もなく美くしい花が何本も子供らの手に持たれました。

ふつと赤い椿の木が消えてゆくと野原の中となりました。たんぽゝやれんげの花を小さい山ほど摘みためた、ふさ子は若草の上に寢てゐます。もう日暮時で太陽は山の彼方に沈

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

みつゝ茜の雲を燃して山の頂の木立ちは金色に輝き何處からか牛の啼聲が響いて來ます。

ふさ子の幻がかうして書かれていく時、隣の敎室ではオルガンを彈いて歌つてをりました。

そのオルガンの音は、ふさ子の耳には牧場の牛の啼き聲ときこえたのでございます。

ふさ子は野原の中で子供だちと手を取り合つて歌つてをります。

ううしもうもう
うしもうもう
おまへのつのは
なんのため――

ふさ子は野に立つて赤の椿の葩をふんで、手を打ち囃しながら樂しくかう歌つてゐるのでした。

「笹島さんッ」。

と先生は、きびしく、ふさ子を呼びました。

敎室の中の生徒だちは、くすくす笑ひながら呆れて、ふさ子を見ました。

先生は敎壇に立つて、ふさ子を恐ろしい顏で睨めつけながら、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「笹島さん、お立ちッ、何故さうおまへはお行儀が惡いの――、」

とお叱りになりました。

おゝ、幻の中で、ふさ子は樂しい小唄をうたつてゐたのですのに――、

ふさ子は机の前に腰かけて、唄ひだしたのです。そして、その瞬間美くしい夢が破れて、鹽つぽく黒い現實が大手を擴げて冷く、ふさ子を捕へました。

ふさ子は、氣が付いて顔が、かつと眞赤になりました。そして胸にどきどきと大きな波が打ちました。もう立つても居てもゐられない樣になりました。そして机の上に顔を伏せました。

「笹島さんッ、なぜ、さうおまへは先生のいふことを聞かないのです、立てといつたらお立ちなさいッ。」

先生は、はげしい聲で叱りました。

ふさ子は、もうもう身も世もない切ない心もちになりました。ますます椅子に嚙りつくやうに身をすくめました。

すると先生は敎壇から降りて來られまして、ふさ子の前へ立ちました。先生の手は細い竹の鞭を持つてをりました。その竹の鞭には白墨の粉がまぶれてをりました。

「こらッ、お立ちッたらお立ちよッ。」

先生はくやしさうに叱りました。そして飼犬が首輪の綱の方向に反らふのに氣を苛立つ樣にぢれて居りました。

ふさ子は夢中になりました。ますます机にかぢりつきました。

「强情な子だね。おまへは温順といふことを女の子のくせに知らないの、馬鹿ッ。」

先生は、かういふて鞭で、ふさ子をたゝきました。

「先生のいゝつけに、反らふ生徒がありますかッ。」

また、ふさ子を打ちました。

竹の鞭についた白墨の粉は、ふさ子の背中に、いくすじもつきました。

けれども、ふさ子は痛くも、なんともありませんでした。それは夢中で居りましたから、たゞ、ふさ子は、この恥しい痛ましい悲しい時の一刻も早く過ぎ去つてしまふことをのみ心に大切に願ひました。

鐘が鳴りました、先生は、ふさ子をとうとう敎室の壁ぎわに立たせました。

外の生徒はみな、がやがや騒ぎながら家へ歸つてゆきました。

先生は敎員室へ入つて行くと、すぐ大きな聲で申しました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「ほんとうに、私んとこの笹島つて子の低能兒には困り切つちまふの。あれほど、出來得るかぎりの力をそゝいでも補導しても仕方がないんですもの、ほんとに悲觀しつちまふんですよ。」

と教頭の机のあたりに聞える樣に申しました。

その日は、うすい寒い日でした、今にも雪がふりさうでした。校長さんや教頭が歸つてしまふと後は、先生達が教員室の大火鉢に赤く炭火を起して、いろいろ世間話をして居りました。

突然一人の先生が申しました。

「あゝ、さうさう教室へ低能兒を、ひとり殘してをいたんだつけ。」

といつて面倒さうに、あくびをしました。

「チョッ」。と舌打をして、バタバタと教室へまゐりました。

がらつと戸をあけますと、うす寒くがらんとした教室の壁ぎわに、ふさ子は涙にぬれた眼を面伏せて影うすくしよんぼりと佇んでをりました。小さい彼女の眼は赤く潤んでをりました。長い長い時間を泣きたいだけ泣きぬいて汚れた小さい手でこすつたのでございます。

「ゐたの。もうえいよ、おかへり。」

と先生は言ひ捨てゝ、ばたばたと廊下の向へ、馳ていつてしまひました。

ふさ子は、儚ない手つきで自分の机から、鼠色の表紙の教科書と赤い筆入とを出して、小さい淺黄の風呂敷に包んで、それを脇に抱えて、しよぼしよぼと教室を出ました。泣いたために鼻水が出ますので小さな寒さに赤くなつた鼻を何度もすすりながら教室の扉を、寒氣にいぢけた手で力なくしめますと、がらがらと校内に響きました。もう放課後、多くの時間を經たので校内に人氣はなく靜かなのでございました。

ふさ子は、もううす暗くなりかけた廊下を、とぼとぼと辿つて昇降口へ出ました。下駄箱から小さい草履を下して三和土の上に置きますと、トトーン、と廣い建物に山彥する寂しい音を傳へるのでした。

その音に、昇降口の土間を掃いてゐた、小使爺は、この小さい女の子を見出して驚ろきました。

「どうした。泣くな。早く歸んな、こんどは殘されねい樣にみつしり勉强しろよ。」

と、その、いぢらしい、ふさ子の姿を見て、哀れみを含んで、いとしさうに申しました。

ふさ子は、「あゝ」と消え入る樣な聲音で、かう答へて昇降口を出ました。

外面は暗く黄昏れてゐました。運動場の遊動木やブランコは暗の中に巨人の様に見えました。校門を出た、ふさ子は半ば自分を忘れて、ふらふらと歩きました。

小學校から、ふさ子の家までは暫の路のりがございました。その路は街を、はづれてゐました。川の流れに沿ふた行く路の、ほとりに小さいお稲荷様の社がございました。

その社の前の赤く塗つた鳥井の前へ來ると、ふさ子は立ち止まつて、赤い小さな鳥井をくゞりました。小さな祠の中には燒物の白狐が一對置いてありました。ふさ子は祠の前にひざまついて小さい手を合せて拜みました。暗の中に眼を閉ぢて一心に

「お稲荷様、お助け、お助け。」

と言つて、小さき救ひの願ひを祈りました。ふさ子は、可愛想な虐げられた自分自身の姿を朧げながら、意識して、お稲荷様に切なる救ひを求めるのでございました。

ふさ子は、また淋しい暗い路を歩き出しました。川の流れに懸けられてある釣橋を渡りました。流るゝ水の音は、さあッさあッ、と聞えてゐました。

黄昏れゆく釣橋の下を水は白く泡立て流れてうす黒く淀んで走るのでした。

ふさ子は寂寞に沈みゆく萬象の中に、きは立つて、たゞ一つの單音を繰返しつゝ一秒の休みもなく奏づる水の流れの音に小さい双の耳を、そばだてました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

水の音の音律は絹を敷ひた夢の韻を爪立て踊る如く、幼なき兒の悲しい魂を誘ひ恍惚と酔はしめてしまひました。

ふさ子は、甘く香ぐはしい夢幻の中に、いつしか吸ひ入れられて居りました。その時いままでの痛ましい悲哀は跡なく消えて、樂しき悅びに滿たされてゐました。そしてあの小唄は小さい唇を通して、水流の音に和しました。

うらしもうもう
うしもうもう
おまへのつのは
なんのため――

歌ひゆくにつれて、ふさ子の胸は樂しさに潤ふてゆきました。寂しく痛ましく暗らい現實に小さい身を虐げられた幼ない女の兒は、果なき人類の生の野に立ち微妙なる愛慾の諧調を魂に芽生えさせて、自分の爲に與へらるべき(愛)を求め探せども、そは空しき願ひに化してしまつたのでございます。そして、いぢらしい泪と悲しみとを小さい彼女は、いつぱい受けねばなりませんでした。愛を求める魂の何處にも持つて行き樣のない、ふさ子は幻の世界に愛のいのちを自ら築きあげました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

小唄を口吟みつゝ、あの水の音を聞くと、いま、ふさ子は自分が愛されてゐて幸福なことを思ひました。

水流の奏曲は、ふさ子を蠱惑しました。優しい人の、さし招く様に、接吻する様に、かき抱く様に、ふさ子には嬉しく懐かしい愛の聲と響いたのでございます。

釣橋の上に響く、いたいけな小唄は暗に吸ひ入れられる様に儚なげに聞えてゐました。

――ふさ子は、流るゝ水底に、美くしい愛に輝く俤をみとめました。幻から幻へ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

水仙の花

齋賀琴

工夫らの唄聲かなし慘として冬の入陽のしづむ山々

なりはひは悲しきものぞおち〳〵と文よむこともわれたえてなし

つかれたる眼にほのじろくしみ入りぬ冬の夜ふけの水仙のはな

一日のうれひをすてゝ只管にねむらんとする午前二時ごろ

けふもまたつかれはてゝぞうちねむる身の鬱憂を忘れてぞねる

わがまへに立つおもかげは幻影かいないとをしき君が姿か

晝となく夜となくわれはまばろしになやまされつつ今日を生き行く

雪しろき越後の國の連山の寂しきかなや旅にきぬれば

くら〳〵と波よる渚夕風にふかれてわれはひとりたたづむ

船出や朝霧こむる海上に汽笛ひゞけば涙ながれぬ

うらさびし雪催ひ空の夕暮に木々ゑながめて君をこふるも

ひとりゐてこのさびしさに死にもせば水仙咲かむわがむくろより

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

人よしれかし今宵はひとり水仙のにをへる室に思ひ耽らむ

水仙はやさしく我の寂寥をいたはるごとく室に咲くかな

死なばわがむくろにもえん一もとの青白き花夢にみえずも

巖山にのぼりてわれは君が舟けふこそ來らめと遠く海みる

むらさきにかすめる波をかきわけて白き眞帆いづ君が舟いづ

北の國町のはづれにすまゐするさだなき友を思ふ冬の夜

砂原の砂にまろびて病む人は白きかもめをとほくながめぬ

寢ねてしばし銀のウォッチをしみ〴〵と見詰むるこゝろさびしきこゝろ

わが胸の底に巣くへるさびしさのうせなん時ぞ生命しぬべき

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

最初の家

五明倭文子

五

賑やかな夜の街を散歩して來ると、二人は今まで閉されてゐた胸の暗い影が次第に薄らいで、身も心も輕くなつたように感じたのである。

淳は簞笥の前へゆつたり胡座をかくと、小さな食卓の上に一杯に並べられた、そばの丼を食べ初じめた。美穂子は勝手から瀬戸引きの藥鑵をさげてきて番茶を汲み、

「ハイお出ばな……」

と、湯呑を彼の前へやつて自分も箸を上げた。慿ふして二人は甘そうにおそがけな夜食を取つた。此時、

「御免、お在宅かね」

と、靜かに低い男の聲がして、玄關の障子が開いた。それは淳の兄であつた。彼は夜氣にふれて緊張した面を茶の間へ出して、

「今日御父さんが上京でね、今此處へお連れ申したが……」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と、立つたまゝ云つて二階へ昇つて行つた。後から父親も皆と茶の間を覗いて階梯を昇つた。

思ひがけない訪れ人に淳は少なからぬ驚きと、惑ひとを感じたが、それでもわざと落ち付いた風をして飲みさした湯呑の茶を飲み終つてから、默つて二階へ行つた。

美穗子は俄かに胸の動悸がはげしくなつたようにさへ感じた。たゞおど〱として、此まゝ何處かへ隱れても了いたい程に思つた。

その云ひようもない胸の惑亂を抑えたいと、暫らくそこに座つてゐた。冷たい氣が無氣味に脊筋へ流れ込んで、思はず身内がぶる〱とふるえた。彼女は急いで起上つて絶えてゐた火をおこしはじめた。バタ〱と團扇をつかひながら、時々洩れて來る二階の話聲に耳を聳てた。七輪の火はパチ〱と音をたてゝ青い煙が漠々といぶせく立ち昇つた。戸をたて切つた狹い家のそれが二階にまで這ひ込みはせぬかと、氣づかふ程に彼女の神經は過敏になつてゐた。間もなく藥鑵の口からは白い湯氣が立ち初めた。

「あの」と、一寸云ひ淀んでから

「二階へ來てよくみーさんの決心を父に話して下さいね」

その時、降りて來た淳は美穗子の側に立つたまゝ、いつになく改まつた風に云つて、火

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

鉢を抱えてまた二階へ昇つて行つた。

長い顏の鼻下に半白の鬚を殘した父親は昔物らしい藍みじんの小袖を重ね、黑紬の羽織をきて床の前に座つてゐた。

「悸ふして皆樣に御心配をかけましてほんとうに申譯がありません……」

「あゝそのことは云ふ……」

と、押入れの前に座つてゐた兄が言葉を挾んだ。

「イヤ決して既往は責めはせん、たゞ此後の決心の程を承りたい……」

悸ふ父親は勿體らしく云つて、やゝそり身のいかつい肩を動かした。淳は平常とはまるで異つて堅苦しくキチンと座つてゐる樣子が如何にも自分達の行爲を、父親の前に自ら責めてゞもゐるかのように見えてゐた。決心！と云はれたところで美穗子は特に人に向つて云ふべきようの言葉も頓みには見出しかねて、唯默つてゐるのであつた。

「いづれにいたせ、悸ふして二人が一所に暮してゐるのを知らなければ兎に角、知つた上は知らぬ風をしてゐることは親として儂には可能ないことであるから、お前達の決心をよく確かめた上で、淸水の御兩親、又松井さんとも御相談して相當の道をたてなくてはならないからな」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

父親は恁ふ云つて、慈情にみちた眼で堅くなつてゐる二人を視た。

「儂も百姓でこそあれ、御らんの通り羽織袴で歩く身であつて見れば多少の名譽といふこともも考へなければならず、また清水の御父さんは固より堂々たる政治家で在らしやるだから尚更名譽も御座らうと云ふものでな」

父親はまた美穗子にこんな言も云つた。それから話題は二三の余談に移つた。が旋がて兎に角父親が歸國の途次、松井を訪ねて事を決めると云ふことにして、父兄は座を起つた。

父は玄關で送り出してゐる美穗子を顧ながら

「もう〳〵何も考へることはないから、時々矢來へも遊びにゆくがよい」と、云ひ殘した。

矢來には淳の兄の家があつた。彼は東京に遊學するようになつてから、始終其家に起臥して居たのである。

父兄を送り出した二人は、復た茶の間へ這入つて火鉢を中に座つた。美穗子は吻としたように上氣した面を撫でた。逢ふまで心に抱いてゐた恐と疑は逢つてみて、春の日中に降る淡雪のように心地よく消え失せて了つたのである。人の批判をすることを極端に忌み嫌ふ淳は、今まで其父や母の事についても美穗子には何も話さなかつたのであつたが、恁ふして親しく逢ひもし話しもしてみて、豫想の外なる優しさと情深さとを今更らのように沁

みく感じたのであつた。

「ほんとうにおやさしい御父さんね、妾の父などゝは全でお違ひなさるわ」

美穂子はつく〴〵恁ふ云つて、心密かに其身の幸福を悦ぶのであつた。

思ひがけない父の來訪は、二人が一所に暮らすようになつてから一度も覺えなかつた慰安と歡喜とを齎らしたのである。

「お父さんはいつお國へお歸りなさるでせう？」

一日も早く解決の付くことを望んでゐる美穗子は、ふと恁ふ云つて淳の顏を覗た。

「二三日中に立つとか云つてた……」

彼は思ひ付いたように袂をがさ〳〵探ぐつて

「金子を貰つたよ」

と、云ひながら新らしい拾圓札を抛り出した。

美穂子はそれを數えて其處に置くと恁ふ云つた。

「五枚あるのね」

「爺父が毎月幾干かゝると訊いたからどうしても七拾圓位は入ると云つたら、書生中からそんなことをしては不可んから兄の家へ同居しろなんて云つてゐたよ」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

淳は何となく愉快そうに云つてゴロリと横になつた。

「貴方は一人になると直き偉そうなことを云ふのね、お父さんの前ではほんとうに小さくなつてゐたくせに……」

「まア〳〵そんな毒舌を振ひ給ふな、いまに吉報が來るよ」

淳は寢そべつたまゝ細い腕を延ばして冷えた飲みさしの茶を甘そうに飲んだ。

「あのおそばを温めて食べようかしら、妾お腹が空いたわ、隨分いやしいのね」

美穗子も樂しそうに火鉢の中をかきならして、小さな鍋を上にかけ、丼のそばを切れ〳〵に其中へあけた。（未完）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

初戀のなりゆき

岡田八千代

十

中學校の運動會へ行くといふことは、幾度か私にはためらはれました。それに母に氣を兼ねてゐる私は、どうしてもその催しを云ひ出す氣力がありませんでした。その中にとう〳〵當日になつてしまひました。その日は土曜日に當つてゐました。學校では正午まで授業をした後、午後から町へ行く事に定められてゐました。私はどうしても母に許しを願はなければ。默つて午後を他處に過すわけには參りませんでした。さうかと云つて、云へば必ず好い顏をされない事は私にも豫想されました。だからと云つて何にも云はずに中學校行きを止めてしまふのには私の執着が許しませんでした。

私は此年頃をどんなに次郎さんの姿を見ることにあこがれてゐたでせう、殊にあの手紙を見てからと云ふもの、私はひそかに夜每に次郎さんに貰つた繪はがきを眺めてはさまざまに次郎さんを胸に描いて見るのでした。

次郎さんと一處に同じ學校に過した三年の月日は、私をいろ〳〵にもてあそびました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

孤獨で意地惡だつた私は、いつか次郎さんの愛を染てから優しい涙もろいをとめになつてゆきました。やがて不意に次郎さんを失なつた私は、やう／＼憂鬱なそして氣の弱い疑ひ深い娘になつて行かうとするのでした。

私はどうしても中學校行きを思ひ斷つことは出來ませんでした。私もやがて春になれば東京の女學校へ遣られなければならぬ身でした。今逢はねばいつ又次郎さんに逢ふ機會があるか知れませんでした。私の次郎さんを戀ふる心は此時になつて急に燃え上りました。

私はやう／＼の思ひで母に申出ました。

「ねえ母ァさん、明日中學に運動會があるのでね、私の級がみんな呼ばれましたの、それでね、先生が連れて入らつしやるのですけれど、もし行かないと缺席になるんですつて。だから如何しませう。」

と私は何處までも自分では行きたくもないやうな樣子で云ひました。

「行くが好いぢやないか、可笑した子だよ、なにも用のある身ぢやなし缺席でもしないのがお前の役目ぢやないか。」

母は直ぐに斯ういひました。そして冷やかに笑ひました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

案じるより產むが易いといふのは此事でした。私は何の苦もなく次郎さんに逢ふ事が出來るのでした。しかし考へて見ればこれは當前の事でした。母はあんな手紙こそは書きましたけれども、もう次郎さんが學校へ來たいと云ふのを知つてしまへば、後は次郎さんが何處の學校へ行かうと構ひもしませんし、又授る人でも無いのでした。母は目の前の障さへ拂へればもう夫で總ての災惡は退れたのだと思ふやうな人なのでした。

私はその夜も寢苦しく明しました。いつまでももづ／＼床の中で動いてると云つては幾度母に叱られたかは知れませんでした。

その日は思ふに增して好天氣でした。午前の授業中は誰一人として懸命に勉強するものなどはありませんでした。嬉しさに饒舌になつた少女達は彼處此處にたむろしてさま〴〵な噂ばなしに時を費すのでした。その時、私はふと思ふがけぬ話に小耳を傾けさせられました。（未完）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

生き路

本庄夏葉

、、、、、、、前略

あなたは私を幸福者だと仰言つて下さいました、私は其御言葉を有り難いと存じます、又私の幼稚な至らぬ想ひをば一つ一つ情けをかけてお聽き下さいました。私の目には知らず知らず涙が滲んで來るのでした、嗚呼長ーい間本當に長い間、私は世の中の事を知らなかつたのです、御聞き下さい此永久に何も云はずに默つた一筋の谷間に點のやうにぽつんと置かれた家の中に私は曙の色に朝々を息づくほか、全く搖籃の外を知らないと云つてよい程ぼんやりに育つて參りました、だん／＼學校に入るやうになつても毎日の教師の語る懷しい講話や書物の示す極りない世界に遣瀨ない前途の憧憬や涯しない時代の追懷はあつてもやがて直ちに來るべき現實社會に對する些の智識も準備されては居らなかつたのでした、準備したと思つた事柄は却つて私を周圍からつき離し其場から退かしめるやうな事のみを敎へました。

まつたく其頃を回顧すると、私は何にも目醒めずにたゞ一向なるまふさぎのまゝ、放り出

された社會の一角に無鐵砲に露骨にやきもきと手足を動搖させて居つたのに過ぎません、私の目は此頃になつてやつと自分の周圍を見廻し得る程に開きかけて參りました、と同時に、これ迄自分の通つて來た道―、それから少し溯つて――、ばた／＼と身をもがいて居た頃の其時々の世界がはつきりと見えるのです。

私ははじめはたゞ自分の眞實なる心を賴つて天を見、地を踏み、至る所の風物に自分の心を語りながらまつしぐらに步かうとしました其頃の世界は私に嘲笑させたり奮勵させたり、興奮させたり感動させたりはしたが失望させるやうな事はさうなかつた、私はたゞ其頃入學試驗の爲め自分の職業の傍朝から晩までぐん／＼と勉强するのに餘念がなかつたのです。

次に來た世界は實に私を不平と不滿の境に導きました。自分の周圍は何等の眞實も理解も伴はない技巧と虛僞と輕薄と、それ等の中でのみ成功する下品なる得意者に取り捲かれて居た、私は試驗に失敗したが餘り失望はしなかつた、それは自分の前途とそれに對する憧憬があながちに入學する事にのみよつて展開されるときまつて居らなかつたから、――けれども私は悲觀し悔恨し慨歎する日が多かつた、それはまつたく眞實なる自分の心と同じに世間を要求した生一本なる誤りからでした、世間には人間の要求するいろ／＼の物が雜

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

多に措かれてある、たゞしそれは自分の心の向ふ部分部分に於てのみ、その部分を見ると云ふ事が私には出來なかつたのです、そして見るもの聞くもの悉くに祟かれ淸かれと敎へられた純心のまゝに迫つたのです、はじめは人を容れなくとも人に容れられなくとも强靭なる希望のはびこりが地を蔑げて居りました、今は其希望も疑ひとなり曇りとなり焦悴となり、常に一歩を出でんと焦る私の現在に澹として術によつてのみ居を成さんとする周圍のはびこりは常に私を惱ましめ、疑はしめました、そして實際に於て周圍の方が幸福なる勝利者であつた事が又私の胸に絶えず疑問の塊となつて迫りました。

私は遂に此世界には共鳴する事が出來なくて久しい間、二年も三年も、もがきにもがきたる揚句、とう〳〵心から、立ち離れてしまひました、自分は最早此處に居る中だけはどうでも宜い、周圍の赴くまゝに任せて、輕く〳〵其群をうち見遣りながら、自分の道を行かう、と決しました、そして私はもう誰とも手をつながずにいつも少し離れた所をぽつ〳〵と氣輕に歩きはじめて見ました。

それからはもう何にも惱む事がなくなりました、どんな事にも苦しまなくなつた、同時に意持と云ふものを持たないやうになつてしまひました、希望もなく未來もない、たゞどうでも宜いと思ひ諦らめる事に浸り入つた、然し悲しい事には諦め通しと云ふ事が聽て自分

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に敢果なさを語つた、やはりさうばかりして居る事が自分の本眞ではなかつたのです。斯くて私は眞實なる心の遣り場を他の何物にか求めやうとしました、幾たびか都に出て先輩の人を訪ふて見た、或時は自分の前途が急に勢づいて來たやうになつて身邊のあらゆるものが一途に輝かしくなつたり、又驟て暗憺たる絶望の淵に沈んだやうな氣がしたりしました、要するに考へては望みをかけ、又退いて自ら失望したりして居たが、社會はそんなに自分の思ふやうに希望をかくべきものでも又失望すべきものでもなかつた。それに私はあまりに多く要求し希望をかけたために、却て自分の行路を因循にし、絶望して居つたので御座います、思へば私は實に極端なる悲觀者でした、廣い〳〵世の中に自分ほど下らない腑甲斐ない人間が又とあらうか、こんなに下らなく生きるのならば、寧ろ生きない方がましだと思つた。

永い間本當に私は苦しんで生きて來ました、人より多く書を讀み多く物をも思ひながら、私には何一つ自分を幸福ならしむべき道を求め得なかつたのです、たま〳〵にして何か少しでも解つたかと思ふと、それは却て自分をより皮肉に、より孤獨に――、より悲觀的に――、あゝ自分は永らくのこんな心的傾向――、經過事實をたゞありふれた悲觀だの、孤獨だの、皮肉だのと世間並に云つてしまふのはあまりに簡單すぎ又無意味すぎるやうな思

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ひがする、けれど其ほかに適當な言葉を知らない、又あり來りなこんな言葉の中には全く一視事に附し得ない痛切な適當した事實がいくらでも含まれて居ると云ふ事を自認し得て此言葉を用ひます、教育の職にありながら教へる事も私は世の誰よりも下手でした、教へ子に對する切なる思ひと希望とは夢にも忘れられない程でしたが、渠等の群の一人をも滿足なる發展を與へたとは思へません、かうしてだん〳〵に自分の行く道が暗く重苦しくなつて來ました、或時はぼつねんと座つた窓先の硝子戸にチョロ〳〵と走る一露の滴りにも――、又或時は老先短かい路傍の一老翁の細杖の搖ぎにも、價ない自分の生を思つて泣いた、何を見ても何を聞いても私の前に來るものはたゞ生くる事の苦しさであつた。身は限りもなく涯世になつかしみを持ちながら、又限りもなく世に離れ人に離れ、大宇宙に浮く點の一點にも價ひしないさゝやかなる我姿を置きかねて、空に浮び地に沈み、一向に絶叫せずに居られなかつたので御座います。

斯うして私は何年かの間、勿論毎日――といふ譯ではありませんけれど、大體通じてたゞ苦しみながらに、たゞ知られざるものゝために、憧憬の瞳を走せながらあえぎ〳〵やつて來たので御座います。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

遂に私は知る事が出來ました。

自分は苦しみのためにのみ生れて來なかつた事を………、私は自分の生をのみ否定してはいけないと云ふ事を知りました…………………××様

人間は在る間は生きなければなりません、何處までも――、自分が此世にあると云ふ事が卽ち生きて行くべき道理である、もし私が生きて甲斐ないそんなに下らない人間なら自然は、私を此世に置きはしない、とうに私と云ふものが滅すべき筈である、私があんなに窮極する程に苦しい生を續けてまでも、なほ滅せずに今迄斯うして在つたと云ふのは自然が私の生を否認しない證據である、と知る事が出來ました、知ると共に私は戀しい未來を思つて泣きました、潸然として世にある人の凡ての生を最もよく解釋し得たのです、父を思ひ母を思ひました、兄弟を想ひました、嗚呼彼の人達は如何に私を要求するでせう!!、亡くなつた地下の兄弟を偲びました。

私は少時一刻一秒時がめき〳〵と身をさして尊く感ぜらるゝを知りました、愛惜の涙は滂沱として靜寂の座に漲つた。

あゝ懷しいお父樣! 其父はもう生くるに餘り計畫をもたない年に入つて居る、お母樣! オゝ其母は如何に私がお母樣々々と追跡して大聲に其名を呼ぶとも溺々として老ひの巷に行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

く事をば止めやうとして呉れない、ォ、其父母は何を私に要求して居つたらうか！。

家に居る自分は愛々たる父母のいとし娘である、私には優しいたゞ一人の姉樣がある、いとしい一人の妹がある、其爲には私は切なる姉妹の情を永續せねばならぬ、私には又任せられたる一つの職業がある、與へられたる敎へ子の尊い群がある、嗚呼かの群のためには私は親切なる伴侶たらねばならぬのであつた、思へば長い間私は何に報ゆるとて、何に此身を供するとて、世にそむき人にそむき周圍にそむき、我なつかしき父母兄弟を忘れてまでも、否そはまだ身の周圍である、何に左右さるゝとて此我がいぢらしく可憐なる清心をせめさいなんで居つたらう、私は不幸者でない、何で世の中にはじめから不幸者たれと生を亨受し來るものがあらう、少くも私は何處が不幸なのだらう、何處に私にさいなむべき惡い所があるだらう、私の心は純眞であつた、そして他の世間の人々と共に同じく此世に生くべき生の特權を亨受して居る筈であつた。

私が他の人より優つて居ると云ふのでない、私が他の人より劣つて居ると云ふのでもない、私には世界の誰にも代へ難い、王公にも代へ難い私自身と云ふたゞ一つの生が與へられて居る、實に此つきせぬ淸淚を內に藏し、廣世人をなつかしみ想ふ切なる胸の想ひも單然と我が行く道に力を與へ、悠々と立つ碧下の步調に鼓響を送る胸裡の血潮も實に何物も左右

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

し得ない我一人のみの所有物であつた。
かくて私はもう誰にもさいなまれやしない、何にも浸されやしない。
二十六年堅然と、枯枝の如く見ゆる早春の樹枝にかつしりとしがみついた蕾の如く、鎖し來つた心の芽は、かくて今こそ適當に開き得るのであらう。
あゝ私は實に極端なる悲觀厭世の徒であつた、今こそ蹶然として世に出でねばならぬ。
私はこれから寸陰を惜んで自分を重んじつゝ行かなければ申譯がありません、何よりも過去二十五年の沈默鍛究の日月に對して濟まぬ。
からつとした晴れたる心になつて、人を歡び、我を愛し、再びと得難い現實の一歩々々を計畫し期待し其時と其場所とに親しみつゝ行かなければなりません。
而して前半生に於て堅く鎖しつゝ知得した凡ての事は私のこれからの生き路をして決してあやまらしめたり不自然ならしめたりはしないだらうと思ひます。
よし又誤つた道に入つたにせよ間違つた考に至つたにせよ、私は其時々に最も適切なるそして最も賢良なる省察と慮想とを加へて、其都度一歩すゝんだ價値ある歩調の活力を調製せねばなりません(終り)

——大正四年二月——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

含葉嘯葉

三ケ島葭

歌よまずもの書かぬ日のつゞくなりうきうつそ身に涙流れて

いつのまか子のさかしまに倒したる時計の音の止まぬいみじさ

わがあるは泣くに聲なくもの言ふに言葉のあらぬむな國にして

千たびきき千たびおのれのうけがひてなほのたまへることは知らじな

安らひのえやすき世とも思ひけりわがうとましき性を忘れて

なにごとぞ君を思ふをおのが世のわざはひのごと思ひなせるも

戀しさのいやまされども寂しかり君がかたへの一人のわれ

身にあまる力か戀か知らねども抑へてしばし心足らへる

否まれし言葉の中に新らしくおぼゆる戀のしづかなるかな

わが男わき目もふらず踏みゆきし麥に寂しく夕日さすかな

妬よりこしさびしさか誇よりこしさびしさかいまだ知らねど

ゆくりなく君と別れて初春の心となれる我にはあらぬ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

目閉ぢたるばかりに人もみつからも命のほかの心地するかな

おのれらの幸てふことをゆくりなく思へるのみに人を恨みき

まぎらすにすべなかりける寂しさを求むる日ともなりにけるかな

君戀ふと苦しきことを言はんより悲しさなどの言はまほしけれ

ああわが世さびしき道のはてなきかはたうつつなき夢に盡くるか

はげしくも燃ゆる心かみこころの靜まりゆくをひとり見ながら

さびしさかはた戀しさか知らねども一人しあれば涙流るる

みづからに捨てし心もあらずして忘れしことの恥ぢらるるかな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

晩秋初冬

山の井みね子

日もすがら裏の畑に豆打ちの音さび行けり秋深くして

豆打ちの音もきこえず夕されればねかへりをして人待ちにけり

一杯の煎藥をかもふゝみつゝ此秋の日をいたつきにぬる

黃に紅にうるめる紅葉見へゐたる我瞳にしとど涙たまるも

病む一日外の面を見ねばうらさみし猫のなく音の細り行くなる

親猫と子猫となける日もすがら聲細り行き夕去りにけり

待つ人も今はなけれどかりそめの我戀心戸を明くるなり

秋雨のふりみ降らずみ我戀は絶えなんとして悲しくは湧く

山の湖ひつそりとしてむら／＼と立ち上る煙うつろひにけり

落葉たくそのそま人をなつかしみ近くすわりて息ひけるかも

栗の葉の落ちたゝまれば道の邊の小川の水はよどみけるかも

朝降れる雪はしつとりとおちつきてその上に松葉いたく散りしく

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あか〱と夕映のして照りかへす町の水たまり薄氷はる

雪どけの水いつしかに藁屋根のその先に白く氷そめけり

雨垂のたる音遠みやねぎしに小さき氷たれそめにけり

町中の水たまり今光りたり夕風渡り雨垂も光る

天井の奥がにこもり夜くれば何故にかなしくねずみはなくや

下駄の緒のうすじめりさへかなしけれつとめの道を獨なりけり

足あとを辿りて急ぐ朝まだき村の街道雪降りやまず

大、四、一二、九

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

白山下より――野枝

萍花樣　御返事を後らしました事をおゆるし下さいまし。

あなたが、あのお手紙をお書きになる迄は隨分いろ〳〵お考へになつて、其上で決心をなすつた事と存じます。けれどもあのお手紙では一寸私にはあなたがどんな方だか、また何の爲めに、どう云ふ考で、私にあの手紙をお書きになつたか分りません。それが一番大事な事ではないでせうか。あなたがもうすこし具體的に御自分の事情をお明しになればどうにかまた考へ方もあるかもしれません。けれどもあれ丈けでは私もどうにも考へ方がありません。

實はあんな手紙をよこすのはあなたお一人ではないのです。隨分いろ〳〵な方があります。私が、何の爲めにあなたへの返事を公開するかと云へばそれは其等のすべての方に讀んで頂きたいからです。

あなたがどんな考へで、またどう云ふ事情で東京へ出たいと仰云るのか分りませんが、大きな期待や希望をもつてお出になるのならばそれはお止しになるがいゝと思ひます。もしも御自分の天分と云ふやうなものを自覺してぜひその芽をのばしたいと云

ふやうな希望をもつてゐらつしやるやうな場合には出來る丈けの苦しみを甘んじて受ける覺悟でなくてはいけないと思ひます。處が今迄の二三の人を見ますと、本當にその覺悟をもつてゐる人はまあ、ありませんでした。大抵は皆、自分の力を過信して、自分を尊大にもつやうな傾きがあります。これはあなたにばかりあてゝ云つてゐるのではありませんから、どうかそのおつもりで讀んで下さいまし。それで、その人たちは苦しみに堪へる事に不服なのです。いゝものゝ芽を持つてゐると云ふことは大變に幸福な事ですけれども、芽が直ぐと、そんなに、のびるものではないのですもの、成長するには、相當の時もかゝります。肥料もまた手も入ります。處が、それを芽とは思はずに、芽を本物に、もう成長しきつてゐるやうに考へる人が多いらしいのです。

つい、二三日前まで私の家にゐた人の例をあげて見ますと、その人は、去年の秋頃まで原田皐月さんの處にゐた人です。大した理由もなしに、たゞ家が窮窟だと云ふ丈けの理由で、家を出て原田さんにたよつたのです。原田さんは、その人に矢張りいゝヂヤアムがあることを認めてゐましたのでその世話をしてやつてゐらしたのだす。處がその人は始めは滿足して原田さんの世話になつてゐたのですけれど、先づ、一番その人の大きな不平は自分がまだ一人前に認められないと云ふことらしいのです。いろ

〳〵な事があつた後に、私たちが九州へ行つた留守宅に、原田さんの處を出て、その人は來たのです。私達は斷らうとしましたけれどもその人は、私達が留守を頼んだ妹夫婦をたよつて來たのだから私たちから、不服を云はれる筈はないと、大變な見幕で反抗して來ました。それならば私達も別に云ふことはないので默つてかへつて來ました。かへつて來て二三日前まで一緒にゐたのです。一緒の家にゐて朝夕その人のやつてゐることなり何なり見てゐて、私は實に情なくなりました。私は「他人の家に厄介になる位なら、女中になる」度々さう云ひました。全くさうなのです。その人ばかりでなく去年も一人そんな人が來てゐました。私達はでもその人たちが多少物の道理の分つた人たちだと思ひますので出來る丈け寛大に遠慮しながら用事も頼み、一つの食物もわけて食べる位にしてゐるのです。處がその人たちは、非常な傲慢なのです。私たちから云へば、貧乏な中から物ずきに人をおいて置く譯けではないのですから少しはどんな位置にゐるかを考へてくれるといゝのですが、私が非常に低く出て氣がねしながら頼んでゐるにもかゝはらず、少し用事が重なつたりすると直ぐに自分の自由を束縛されると云ふやうな不快な顔をして仕舞ひますしどうしていゝか知らないやうな氣になります。私はつく〳〵さう云ふ人を置く事にこりました、居

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

る人は平氣だから幸福ですけれどもおく私の方では不快な目に遇ひつゞけてゐなくてはならないのです、こんな馬鹿々々しい事はありません、私の方はおいて氣兼なくどし〳〵自分の思ふ通りに働いて貰ふことの出來る下女をおく方がどの位いゝか知れません。また置いて貰ふ方の側になつて考へますと、これも矢張り馬鹿々々しい目に合ふことになります。

一體、何故さう云ふ人が獨立心をもつと起さないかと思ひます。「自分の標榜してゐる生活と合はない」と云つて家を出て直ぐ他の人の家を便り、それで合はなくなればまた出ると云ふ調子では何時までたつてもさいげんがないと私は思ひます。他人の厄介になつてゐて自分の自由を主張しやうとするのは間違つてゐるのではないでせうか他人の厄介になると云ふことは既でにもう自由をなげ出した事になります。女中の方がまた本當に自由を主張する資格をもつてゐます。正當な勞働をして正當な報酬を貰つてゐる以上は立派に獨立の働きをしてゐると思ひます。私は何時でも自由々々と云つて大概の人達が外面的な些末なことに拘泥して、つまらない反抗心を出したり、わがまゝをしたりするのを、苦々しい事に思ひます。本當から云へば外面的な束縛などは、もつとずつと内面的に喰入つてゐる人には何でもないのです。多くの場合、外面的な自由を欲して不向見な事をする人は内

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

面的な非常な不自由を見ることになります例を擧げれば澤山あります。今云ひました人にしても、他人の處へなど便る位ならば少しの不自由を忍んで自分の家にゐれば左迄氣がね苦勞をせずとも、多少自分の時間を見出すことも出來ますし、心掛一つでは結構勉强が出來ます。けれども一たん家人を突きはなして、一人して出て來た上は直ぐに他人に衣食の道をすがらなければならないやうになるぢやありませんか、それでは折角自由を欲して出ても、却つて窮屈な處に自分をおくやうなものです。とう／＼その人は、私達の母の前に、何時迄もゐてなくかうしてゐられないから、實家へかへるやうにすると云つたさうです。さうして此度家に入れば以前にました不自由が身をとりまくに違ひありません。出ない昔の方がずつと自由であつたと云ふ事が結局になります。また他の例は、たゞ、自分の天分と云ふものを便りに折角上京しても直ぐに衣食の道に困ると云ふ一樣な難關にあたつてついに心にもないつまらない職業に逐はれてとう／＼天分どころの騷ぎではなくなつてともすればより處のないような不幸な身になつて仕舞ふのです。私は、あなたが必ずさうだと云ふのではないのですけれどもこの位の事でも知つてお置きになつた方がいゝと思ふのです。勿論少數の例で一々推斷をだす譯ではありませんがつまらない私の老婆心から申上げるのです。もしあな

たが本當に決心してお出になるのなら私は決してゐらつしやるなどは申ませんけれどもよく〳〵熟考の後になすつて下さいましでないと、どんな事になるかも知れません衣食の仕事に從ひながら勉强すると云ふことは非常に六ケ敷いことであります。一寸空に考へて見るのと實際とは非常な差異です。そんな事も綿密に考へて欲しいのです他人を便ると云ふことは自分を狹めることになるのだと私は思ひます。まさかの時には飯たきをしても自分丈けの始末は出來る位の覺悟がありさへすれば大抵は大丈夫です。處が少し敎育を受けた人は、一般に、「氣位が高い」と云はれるやうに、自分をなるべく樂に多少の尊敬を拂つて貰ひたいばかりに習俗的な考へから、どうかいくらか上品な仕事につきたいと云ふやうな欲で、實際は、使はれることに於いては少しも違はないのですけれども、多少輕侮をまぬかれない女中になどはならないと云つたやうな固陋な考へをもつて實際は下女以上に不見識な境遇に身をおく事に平氣になつてゐるのを見ますと私は本當にその人が分らなくなつて仕舞ひます。

何が困ると云つて生つ噛りな理屈程自分を墮し他人を苦めるものはありません。若しもあなたが外面的な生活に何處までも無頓着に本當にどんな苦しい場合にも自分を忘れずに把持して內面的な生活を深めてゆくことが出來る丈けのお覺悟があればそし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

てまたもつとあなたと云ふ方がどんな方かと云ふことを具體的に私にのみ込まして下さる事が出來れば何とか考へ方があるかもしれません。何しろ、あのやうな漠としたつかまへ處のない夢のやうなお手紙では私には何にも分りません。從つてとてもそれを眞面目に考へて見ることは出來ません、殊に前に申しましたやうに幾人もの人の例がなを私を臆病にします。如何に私が親切氣を出さうと思ひましてもこれ丈けは出來ません。何卒御熟考の程をねがひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

更に論旨を明かにす

青山菊榮

野枝樣にお逢ひして一通り話の濟んだ樣な形になつてゐる今日となつてはこの筆をとる必要も薄らぎ熱も褪めはしたものの猶一應私の論旨を明かにしておく爲に再び誌面の一部を拜借致します。

公娼廢止と私娼增滅の問題に關しては諸所で御質問をうけました。私娼は本來社會の裏面に散在するもの故精確な數を知る事は困難ですが一般の黴毒率を以てその影響を推す事が出來ると思ひます。日本に於ける唯一の廢娼縣群馬――明治二十六年斷行――に於ける壯丁の黴毒率は全國中最低の部に屬して居りますし、クリスティアナの如きも廢娼後黴毒率は低下して參ります。大都會は小都會ほど好成績には參りません、つまり積極的に減少はしないにしても、人口の急激な增加に比して黴毒の增加は極めて遲々たるものがあるのです、隨つて長い間には率の低下を豫想する事が不可能でないのでより以上に不自然な社會狀態に强ゐられて賣笑婦の供給が增加する樣に思はれるのです。もしも東京が三四十年前の大きさと人口とを保ち、婦人の職業範圍が廣く手當てもよく、且戰爭も恐慌も全然來

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ないのであつたなら――つまり生活難の壓迫が無いのであつたなら――吉原は衰微しても私娼は殖えなかつたかも知れません。恐らくは殖えなかつたでせう。

廢業後の娼妓の處置などは愈々廢止と極まればどうにでも工夫がつくでせう。私は各府縣に救護所をおいて有志の婦人が指導の任に當り職業敎育と多少の智識を與へでもするが宜からうと思ひます。さうなれば政府でも相應の負擔はするでせうし見え坊の金持などは相應に金を出しませうから。廢業娼妓一人の費用が月に二十圓とすれば概算五萬人に要する額は年に一千二百萬圓、それに雜費を加へて二千萬圓として、全國の遊廓に年々落ちると云はれて居る五千萬圓を思へば差引日本は年々三千萬圓得をする譯でせう。

私は公娼問題は「何をおいても其爲に働く事に一番意義がある」といふ程には嘗て考へた事も無し、云つた覺えもありません。只これを保存す可きや否やといふ場合には飽迄否と答へます、そしてさういふ制度の不必要とその廢止に弊害の伴はぬ事とを證明する爲めにこれ丈書きました、これで公娼問題は打切ります。

さて一部的な枝葉な公娼問題は片づいても賣淫といふ事實は依然として殘つて居ります。本來賣淫は都會現象であつて都市の大きさと人口の多少とに比例して消長するもの故東京の樣な大都會は相應の設備を以て禍を未發に防ぐ必要があるのです。歐州諸市殊にコ

ペンハーゲンの如きは婦人が市政に關與してゐて婦人の救濟及職業周旋等に盡力する結果廢娼後の成績が甚だ良好だと云ふ事です、又花柳病の豫防の爲には患者があり次第醫師から當局に屆け出ることになつて居り屆出を怠る者は嚴罰に處せられます。日本に於てもこれは參考にして好い事だと思はれます。公娼は許し且檢黴を施せば人が公然と又意を安んじて近づくので餘計危險が多いのです。又醫者でも卜者でも評判な者が出來ると其附近に似た樣な構へや名稱をもつモグリ然たる同業者が殖えて、最初は落ちこぼれを拾つてゐるうち段々顏馴染が出來て根が、固くなるさうです。遊廓を中心にして魔窟が勢を得、やがては本家を凌がうとするのも之に似て居ります。どの道公娼制度が私娼の增加を防いで居ない事は明白です。隨て私は存置の理由を知るに苦みます。

又吉原が衰微に傾いた今日、市内の私娼の增加は驚くに足るといふ事實を何で說明するかといふ野枝樣の仰せですが、私はそれには吉原の衰微よりも東京市の膨脹と近年の經濟的不安及婦人の勞働賃銀の低廉等が與かつて力ある樣に思ひます。一月號にも申しました樣に多少は一般の人氣が私娼に向いてゐる爲めもありませうが、それよりは如上の三ッが直接且最大の原因である樣に思はれます。つまり需要に挑發されるより又婦人の勞働賃銀と賣笑婦の供給との間には密接な關係があるのですから女は自衞上誠實なる勞働に公正に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

報ゐられることを主張しなければなりません。又さういふ自覺を吹き込んでゆく事が必要であらうと思ひます。

私娼の取締に就て私は寛に失するよりも嚴に失する事を恐れて居ります。賣淫は形式はともあれ事實上婦人自身好んで陷るよりは社會の狀態が之をそこへ導くのですから實際は後者の責任であると云はなければなりません。然るに可憐な犧牲者に自己の責任を轉嫁して之を罰することは社會が二重の罪を犯す事になります。もし賣笑婦を處罰するならば共犯者たる男子をも同罪に處す可きです。私は賣笑婦の處罰が單に不正にして不公平に陷ることを恐れるのみならず賣笑婦自身に及ぼす社會的並びに心理的惡影響を更に恐れます。一旦犯罪者の烙印をおされゝば賣笑婦の自暴自棄を招くと共に社會の指彈を嚴しくして正業に復する希望及機會を減少するとも多くする事は無からうと思ひます。刑罰は賣笑婦に限らず凡て人を矯正よりも墮落に導く事が多いのは一般の認める事實です。又賣淫は壓迫に依て消滅するものではなく之を餘儀なくせしむる根本原因を除去する事に依てのみ根絕せしむる事が出來るのですから先第一に生活難を緩和する方策を講じなければなりません。その一法として有志婦人が職業敎育及周旋の任に當る必要があらうと思ひます。社會は賣淫を婦人の先天性に歸する習慣をもつて居ります、通常其等の婦人は淫婦惰婦である

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と云はれて居ります、この非難に對しては性の解放及敎育の革新と普及の必要が答へて居ります。又虛榮心といふ事を以て婦人を非難する人々には私は斯う答へ度いと思ひます。世間が普通に意味する所に隨つて虛榮心といふ言葉を美衣及裝飾品に對する熱望と見ればそれは人間自然の要求であり、美に對する憧憬の發現であつて進化し鍛錬する必要はあつても咎む可き理由はありません。趣味も美術もさういふ本能の發達した結果であつてそれに依て人生を快美ならしめて居るものではありませんか。この人間自然の寧ろ助勵す可き本能の滿足を一部階級のみの特權としておく事が惡いので之を羨望し之を熱求する他階級の人々を責める事は背理です。私は專恣なる徒食階級が他人の勞働結果を占有して樂しむ贅澤を等閑視して、他の階級に屬する婦人らにのみ人間として等しくもつ本能を抑壓す可く强ゐる社會、特に敎育業者の態度を憎まずには居られません。左樣した不自然な抑壓が男女の師範出身者のいぢけた卑屈な陰險な通有性を生み出したのではありますまいか。斯樣に人間の自然を蹂躙する樣な敎育方針は早く改めなければなりますまい。

猶一月號に野技樣は「男女の人口が不釣衡になり益々結婚が困難になつて來る」とお書きでしたが――これは女が不釣衡に殖えるといふ意味なさうです――今の所日本には左樣いふ形跡は毫もありません。歐洲各國に於ても出產數は女兒の百に對する男兒の百五乃至

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

七だと申します、それが生長後生活難に逐はれて他大陸へ移住するので女子の方が多數になるのです。歐洲で不足して居るのとほゞ同數の男子が米大陸に餘つて居ると申します。戰爭其他の災害が無ければどこの國でも男女數は本來大抵平均して居るものださうです。日本に於ては目下男子の女子に優る數は五十萬餘に及んで居ります、此うち海外移住者等をひいても猶當分女子の超過することはありますまい。衛生局年報からひいた左記の數字は其關係をよく示して居ります。これに依て私は日本の結婚難は決して男女數の不釣衡に基くものではなく全く經濟事情にのみ基因してゐるといふことが出來ます。

生産

	男	女	女百に付男
明治四十二年	八六三、八五五	八二九、九九五	一〇四、一
同　四十三年	八七二、七七九	八四〇、〇七八	一〇三、九
同　四十四年	八九一、〇四九	八五六、七五四	一〇四、〇

死産

	男	女
明治四十四年年(前二年もほゞ同じ)	八二、五一五	七二、三六二

死亡

	男	女
明治四十二年	五五〇、二六七	五四〇、九九二

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

同　四十三年	五三九、〇七六	五二九、一五六
同　四十四年	五二六、一四一	五一七、七六二

	明治四十一年末調本籍人口	同上百分比例	明治三十六年末調本籍人口の百分比例
總數	四九、五八六、一七六	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇
男	二五、〇四四、六七九	五〇、五一	五〇、五〇
女	二四、五四一、四九七	四九、四九	四九、五〇

さて次には時對人間の意力の問題ですが、これに就ては野枝樣は運命論者であり私はさうでないのですからどこ迄行つても意見の一致し樣はありません。只私が考へましたのはもし運命論に徹底すれば人間の一切の努力を無意義とする事になりはしないか、つまり人間の意見は無きに等しいと云ふ事になりはしないかといふ事でした。さうなつて來ると私共の立脚地は根柢から覆されてしまひます。私はどうしても努力の價値を否定する事は出來ません。「いかにもがいても時が來なくては駄目だ」。と仰せのその「時」は人間の努力次第心懸次第で早くも遲くも來るものであり、來させる事も來させぬ事も出來得るものだと思ひます。私は人間自身それを欲するや否やが第一の問題だと思はずには居られません。

私が「凡ての社會制度は人間が作つたのであり、こわしたい時にはいつでもこわせる」と云つたに就て野枝樣は疑をおはさみになり社會制度は粘土細工ではないといふ仰せですが法律で制定された諸般の制度は大抵少數の權力者が自己の利益の爲めに造つた「粘土細工」だと私は思ひます。それを粘土細工で無く地から根の生えた石造りの樣に信じさせ樣とする所に政府者の苦心は存するのです、そして其計畫は圖に當つて今日まで又今猶大多數の人間はそれを生え拔きの石造りだと考へて居ります。御用憲法論國民性論等の效績は實に沒し難いものがあるのです。ひとり思索の方法のみならず感情にまで浸透する事に成功したこの種々の敎育は今日日本の國民をして世界に類なき重税を負ひ乍ら猶且瑞穂國の光榮を謳歌する程天下泰平なおめでたいものにならしめたのです。私共の戰ひの相手は粘土細工其物ではありません、粘土細工を石造りと信ぜしめる樣な人及其思想に外ならないのです。人間の思想は時代と共に推移致します。社會はその推移しつゝ行く思想に應じて變化を遂げなければなりません。その變化を妨げるものがとりもなほさず吾々の敵であり同時に人類の敵であるのです。私は人間は誰が作つたのか知りません、神の細工でも宜しアミーバの成り上りでも差支へありません、誰が作つたにせよ私は私のより善く生きんとする本能に導かれて行く外無いといふ事實は動かされません。私は「威大なる自然力」であ

らうと造物主であらうと私の生活本能を防遏せんとする者は凡て敵と看做す事を憚りません。私は私自身に忠實であることが直ちに自然なり造物主なりに忠なる所以であると考へます。

又過日野枝樣は人を覺醒させる事の是非に就てお話になりましたが、私は如何なる人でも覺醒させた方が好く――無論自發的に――且其刺戟を與へる事を必要と致します。畢竟今日の人間の悲慘は其無知無自覺が最大の原因なのですから。各自が自己の尊貴を認めて自己の爲に生きるのであつたなら今日の要らぬ戰ひ、要らぬ涙を人類は經驗せずに濟んだでせう。永く其の要らぬ戰ひ、要らぬ涙を續けまい爲には人間は各自一刻も早く自己に目ざめる必要があります。私共は私共自身を鞭韃して愉安を戒めると共に人の惰眠をも出來るだけさましたいと思ひます。野枝樣が婦人矯風會に向けて攻撃の矢をお放ちになつたのも意識的か無意識的かは知らず、やはり覺醒を促す意味、刺戟を與へる意味に外ならなかつたのではないでせうか。もし人は人、自分は自分でほんとにかまはないならば人間は互に默々の裡に自己の道を歩めば好い譯です。既に人間が互に其存する以上、社會は自分の一部であり同時に自分も亦社會の一部であつて、互の利害休戚は密接な關係がある筈です。それを無視してそれから孤立して自己の生活を築き上げる事が出來るでせうか。侵さず侵さ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れぬ事が個人主義の要義であるからには無知無自覺なるが故に人を侵し又人に侵され乍らそれと覺らずにゐる人々を目ざますことは個人主義を徹底させる所以だと考へます。人を覺まし人を導くといふ事は——そして各自に自主的精神を與へることは——個人の權利を侵すことでは無くて却てそれを尊重する所以なのです。下等な生活でも本人が滿足してゐる以上、他人はその改善を圖るに及ばぬ樣に野枝樣は仰せでしたが私はそれをす可きや否やより以上、見るに忍びるや否やの問題だと考へます。例へば春の日永の波打際に快げに身を延ばして長閑な睡りを貪つてゐる人があり、そこへ段々潮が高まつて來るとします。睡つてゐる人にも自分を呑まうとする波の音を夢心地に天上の音樂と聞きまがへて眞に幸福らしい微笑を寢顏に浮べて居ります。そこへ突然聲をかけて呼びさまされたならまだ自分がどんなに危險な地位に居るか知らぬその人は安眠を妨げられたと許り思つて怒るでせう。亦其人が其時波にさらはれた方が幸福か、餘生を續けた方が幸福かは恐らく誰にも分りますまい、しかし見す／＼さうした危險に迫られて居る者を餘り心持が好さゝうだからと打捨ておく事はどうしても私には出來ないと思ふのです、自覺の無いものの幸福は私の眼にはいかにも脆さうで危くて見てゐられないのです、そこで其小さな擬ひ物の幸福を捨てさせて一層鞏固な基礎の上に自己の生活を築かしめ一層安全な確な幸福を捉ませ度いと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

思ふのです。法華經の火宅の譬への樣に火のついた家の中で何も知らずに嬉戯して居る子供らを餘り面白さうだから餘り樂しさうだからとて打捨てゝおく事が出來るでせうか。

私は各自の獨立を尊重致します、決して私の意思を人に强制し樣とは思ひません、しかし自分が或信仰を得た時人にそれを頒ちたいとは思ひます、そして眞の生命の源泉に口をふれて始めて味ひを得らるゝ幸福の味を人に吹聽せずにはゐられません。人は人、自分は自分といふ工合でなく、各自互に啓發し合ひ影響し合ふ事に依て始めて自己の生長は期し得られ社會の進歩が可能になるのだと考へます。

猶野枝樣は十二月號の論文に就て深い自信は無いものであつたとお斷りになりました。自信の無い言論は遊戲です。それは公人としての責任と矛盾しは致しませんか。向後は確實な知識の上に築かれた自信ある言論をのみ公表されん事を切望致します。（一月十八日）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

再び青山氏へ

野枝

私は、もう、あなたのお書きになつたものに對しては出來る丈け口をつぐみ度いのですけれども、矢張り私の考へ方が誤解されてゐるのに對しては、あんまり默つてゐられませんので、もう一度かきます、もうこれでおしまひです。

賣淫制度については、私はさう云ふ專問的な智識を私は少しも持ちませんからとお會ひした時にもお斷はりいたしましたのです。私があの感想を書きましたのは田舍の新聞にたのまれてその爲めに書いたので、私としてはあの感想は、さう根深いものを意識して書いたのではない事は事實です、たゞ私は多くをあの文の前半について云ひたかつたのです。併しこんな事は云はなくてもいゝ事でした。私が此處で申上げたいことは、「時」と、云ふ問題ですが、私は、造られた物の價値その物と云ふ側よりも「質」はどうとしてもそれを造つた努力には相當の尊敬を拂ひたひと思ふのです。爲ることの內容は善であつても惡であつても遂げやうとする努力は眞劍なものだと云ふことは何時も私の頭にあります。それで社會制度と云ふものが、それが、畢竟は人類の爲めには不利なものであるとしても——實際

それがどの位、人間の生活を慘めにしてゐるかは私も知つてゐます――それ迄とにかく多くの人間の生活を支配するやうにまで根強くさせたのは權力階級の熱心な努力ではないでせうか? 私はそれが決してなまやさしい事ではなかつたであらうと云ふ事を思ひます。それをくつがへすには――是非くつがへさねばならぬ程それが非道な制度だと云ふことも承知してゐます。――矢張りそれ以上の努力が必要だと云ふことになります。彼等は長い時を費して、今日に到りました。處で私は矢張り、その革命も結局はそれと同じ長さの努力歴史を造らなくては成功することは出來ないだらうと云つたのです。私は努力を無視した覺はありません。私の「時」と云ひ、また運命と云ふのは恐らくあなたの考へてお出になるよりもつと廣い意味であるらしく思はれます。私の運命と云ふのは、人間のすべての營みと云ふものも皆ずつと高い或意力によつて動かされてゐるのであるとしか思へません。何の爲めに、自分と云ふ人間が、「生」と云ふものを與へられたか? と云ふ根本問題を考へ始めますと私は結局は生きてゐることが出來なくなります。私達の知ることの出來ない更に大きな目的の爲めに、――と私はそれですましてはゐらないのです。けれども私にはたゞ、「存在」と云ふことが事實である丈けは分ります。私たちはその事實にたよつて生きてゐるより仕方がありません、人間生活のすべての基調となつてゐる、眞とか、美とか云

ふ觀念も實は私達に知れない目的の爲めに働いてゐるより高い意力の働きではないかと私には思はれるのです。で私は決して、私の運命論を徹底させても無爲と云ふことにはならないと思ひます。私は與へられた「生」を與へられ大意力によつて出來る丈け歩みをつゞけさせやうと思ひます。であなたは私の運命論を徹底させれば努力が無意義になり意志と云ふものが無いも等しいのだと仰云います。さうです。つまりはさうなります。人間が或意思をもつてゐることは確かですが、更に高い意力がそれを支配してゐると云へば無いも同然になります。其處で、私は何の爲めにその支配を受けるか、と云ふことが分らない事になりますね、すると私は何の爲めに生きてゐるかゞ分らなくなります。問題はもう一度あと戻りをします。私は其處にばかりこびりついて考へますと結局はその支配を斷らなければなりません。さしあたり自殺でもしなければなりません。處がもつと考へをすゝめて見ます。かうやつて、そんな事を考へる事でさへ矢張りその支配下にあるのです。私たちは死ぬにも生きるにも、一擧手一投足にもその力の支配を受けてゐるのです。それで私は不可抗力と云ひました。私はそれを絕對と云ひます。それで人間の意志と云ふやうなものを全然獨立した働きだと見てそれですべてをしやうとしてこの考へにぶつかれば一度は信念と云ふものもぐらつきます。併し都合のいゝ事には、人間は始終そんな根本問題ばかりに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

頭をなやましてゐる事が出來ないやうな生活狀態にあります。そしてその爲めには各自にもつた意力を働かしてゆけばいゝやうになつてゐます。此處に、私とあなたとの考へ方の根本の差異があります。私は何時でもその絕對と云ふ力を後に自分の生活を出來るだけよくして行きたいと思ふのです。ですから、私は先づ自分の意力を出來る丈け自分の爲めにのみ驅使したいと思ひます。そうして後にもし、自分の意力が生み出した自分の生活を常に觀察しながら、若し、人間の共通點や類似點と云ふものによつて、自分の生活が自然に他人のそれを啓發することが出來れば私にはこれは立派な一つのよろこびであります。私が自分の感想を――貧しい、下らない――でも發表すると云ふのは、その意に他ならないのであります。

　私は何時でも絕對を眼中において、考へ、あなたはその力を無視してゐらつしやる丈けの違ひなのです。結局は矢張り一つ處に行つてゐます。何故なら、あなたは、矢張り自分自身に忠實であることが直ちに自然だと仰云つてゐらつしやいます。私もさう考へます。たゞあなたと、私の差異が、この異つた議論を生んだものであることを私は信じます。人間の思想が推移して行くと云ふことはあなたも承認してゐらつしやいます。私は今からしてこんな考へでゐますけれども自分で、自分の考へがどう變つて行くかもしれないと思

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ひます。（餘計な理屈を此處でもう一つ付ければ、若し人間の意志が全然人間の自由になるものならば自分自身の一生の計畫が苦痛なしに正確に出來なければならないと思ひます。）

私は現在の社會制度に對しては、あなたと同様に不平と不滿と憤激をもつてゐます。或はあなた以上にもつと反抗心を持つてゐるかもしれません。けれど、今の私はあまりに自分の生活の健在を祈つてゐすぎるのです。その事は自分でも知りすぎてゐるのです。若し私が今日迄家庭生活と云ふものを知らなかつたら、私は眞直に反抗心の火の手をあげたかもしれません。幸か不幸か、私は人間の親になりました。私は子供を出來る丈け、幸福に、立派に育てたいと云ふ本能の爲めに、先づ自分と云ふものから省みて行かなければならなくなりました。私は出來る丈け自分に無理をしたくないのでその本能的な生活にひたすら沒頭してゐます。けれども私の頭の中から。全然その不平や不滿が逃げた譯けでなく、此度は方向をちがへてこれから生れて行かうとする子供達の爲めにまた社會制度にぶつからねばならないのです。私のそれに對する憤激の熱度がまたどの位に上るかは自分でも分りませんが、これがまた、私の生活をどう轉化するかしれないのです。ですから、今の私は一般に對しては感想を發表するにしても批評をするにしても自分を中心として極く消極的な考へでゐますけれど何時積極的な意志をもち出すか分りません。唯、現在では、さうした

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

外的な運動をするには私はあまりに、自分と云ふことにこだはりすぎてゐますので、出來ませんのです。自分の生活のぐら付きさうなのが氣になつてとても他人のことに積極的な手出しが出來ないのです。つまり、意久地なしだと云ふ事です。私の熱情がまだ其處に生き甲斐を見出す程に炎え上らないのです。

くだ／＼しい事をかくのは止めます。これで私の考へ方がまたあなたに通じないとしても私はもうお答へは出來かねます。私はこの問題はもうこれで打ち切りにしたいとおもひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

折りにふれて

岡田ゆき

あの時程血の色が美しいと思つた事はない。

それは先週の土曜の夕方であつた。T町の叔母が來て急にA館に行く事になつたのでそゝくさと風呂に入つた折り、暫く顔を剃らないから自分で剃つた。

丁度弟が頭髪を刈るので萬公(床屋)が來てゐたのに、

「もう遲いからひとりで剃るわ」。

とばかりで持ちつけない日本剃刀で剃つてゐた。

こころがどうした機勢(はずみ)か自分ながらわからずにハッと思ふ間に唇の右側を少し切つた。

濡れて居た所だつたので少しの血でも繪筆にたつぷりと朱をふくませてぼかした樣に色あざやかに散つた。私は血の色を見と、一寸どぎまぎして急いで剃刀を仕舞ふとして湯をかけてタオルでこすつた。周章(あは)てたと見えて刄の上をこすたからたまらない。右の中指のさきを切つた。

「あゝ切つたな。」

と思ふとやつぱり濡れ手だつたので美しい血はひろがつた。血止めを貰ふために芳(女中)を呼んだので叔母も來た。

彼女は風呂場の戸口に立つて。

「まあ、どうしたんだね。どの位切つたのさ。」

と途方もない大きな聲を出した。

それを聞くと私は指を抑へながら。

「爪を殘してぶら〳〵よ。」

と心にもない事を云つてしまつた。餘り美しいあざやかな血の色に魅せられたのか、少しゝか切らない事を知つてゐながら途方もない事を云つたのである。

それにひきかへて、昨日程血からいやな感じを受けた事はない。

朝山田先生へ上らうとして、學習院の横を曲らうとした時だつた。坂であつたので下を向いて梶棒を握つてゐた虎(車夫)が

「あゝ大變な血だ。およそ一升位。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

とさけんだ。

往來に凍つた樣なひからびた黑血。

殺された犬や猫の血にしては少し變である。通りがゝりの人が吐いたのかも知れない。男か女かわからないがやせて目ばかり大きい、硝子玉の樣な感じの人間か血を吐いてゐるのが突差に頭に描かれた。

何だか胸がムカ〱するいやな氣持ちになつた。

御講義最中も私は此の血を思ひ出した。血は……殊に、此の血は私にいやな聯想をさせる。歸宅後食事の時も、床に入る時も幾度となくこれを思ひ出して其の度にいやな氣持になつた。

自分の生活が眞實でない事を見出して私は先日來悶へてゐた。自己の力で徹底した生活がしたいと考へ出したらもうこうしては居られない樣なもどかしさを感じた。けれど殼を破るには餘りに私は育つてゐない事を心づいた時、何んとも云へないやるせない氣持ちになつた。此の樣に私が考へたのは現在の自分は準備の時代にあると云ふ事をからりと忘れたゝめであつた。ぐず〱考へてゐる程人間として馬鹿らしい事はない。こんな事を考へるひまに、私は努力しなければならないのである。つまり現在は此のまゝでみつちり勉强するのが最もよい事なのだ。

必ず早まつてはならないのである。

昨夜有樂座に露國人の曲藝を見た。一行は十人餘りで喜歌劇團と銘うつてあつても、オペラはしないのである。劇場一杯に人が入つた幕間には煙草と香水の香が廊下に燻ゆる位でなければ何の力も熱もおこらないものだ。昨日の樣に寂しい座に入つた事は初めてゞある。觀客も皆いやに寒さうに霜げた樣子をしてゐるし、演者も何となく旅藝人らしい暗い影を持つてゐる人達であつた。

水を渡つて來る冷い川風に、しよんぼりと立つ色の褪せたらしい幟。それに座の入口の淡い電燈の光りがあたつて人つ子一人ゐない札賣場がたまらなく物悲しさを感受させる。

ほゝ笑みつゝ體をかろがろしく踊りまはる若い踊り子を見ながら、舞臺から來る冷い風に身をふるはせつゝ遠く故國を離れて此の樣な土地へ來た彼等のライフを考へて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

無性に寂しくなつた。心に悲しみを抱きながら表面は無理に快活をよそほふてゐる樣な年增女が鸚鵡を十六羽使ひわけた。藝そのものは只あき足らない、つまらないものであつた。

然し一座の女は皆相當に美しい皮膚と立派な曲線美を持つてゐる。それが尙一層私にいたましさを增した。興行しながら知らぬ土地からまた見知らぬ土地へと渡り步く彼等の氣持ちはどんなであらうか。まして入りのなかつた場合は。などゝ考へたらひとしほ寂しくなつてしまつた。

自分がいつも劇場に入つて受ける感じは、友禪染のそれの樣に、花やかなものであるが昨夜はさうでなかつた。灰色の樣な地味な感じであつた。

　私は覺えてゐる。たしかそれは日露戰爭後の祝勝の時であつたから今より十餘年前の事である。叔母達に連れられて慶應の坂下で紅のだんだら絞りを肩にかけたかの樣に後から後からと續く學生のカンテラ行列の火の流れを見たのは。

其時は力士が各科の考案に成つた萬燈をかついで行つた事が幽かに心にきざまれてゐる。

今夜慶應に御大典奉祝のカンテラ行列があると云ふので夕飯後女中達を見せにやる事になつてゐた。母が私にも

「皆と行つて御覽なさいよ。」

と云ふ。けれど只單にカンテラをわざ／＼見に行くのは云ふ迄もなく馬鹿らしい事である。然し私はたとへ幽かながらも幼い時の記憶の鏡にうつて消えずに居る事を、今またくり返して遠い過ぎし日を追憶するに一種何とも云へぬ興味を持つてゐる。

今夕も此の心持ちが大部をしめて、丁度來合せた師匠と共に私を三田通りへ走らした。けれど少し行き方が遲かつたゝめ、行列はもう通り過ぎて群集がくずれた所であつた。

然しかなり離れてはゐたが火の帶の端を見た。それでも見ないよりはよいと思つたのである。

（大正五、一、五）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

編輯室より

□今月は校正の出方が大變に後れました爲めにおそくなりました。先月號は二ケ月ばかり遞信局の納本がしてありませんでした爲に郵便局に三四日留め置かれましたので地方へは大變に後れましたでせうと思ひます。何卒あしからず。

□歐洲戰爭の爲めに洋紙の價が非常に高くなりまして此の頃では以前の倍高くなりましたので情ない私の經濟狀態では思ふやうな紙も使ひきれなくなりましたので今月からはずつと質をおとしましたけれども、それでも價の點では以上のいゝ紙よりまだ高い位です。だんだんにまだ高くなりさうですがそれではとてもやりきれませんので今月から少し頁數を減じました。併し出來る丈けの頁數はとりたいとおもひます。

□雜誌をもつと少さくしろと云ふ忠告を度々受けますけれど私としては成べく現在のまゝに續けてゆきたいと思ひますので出來る丈け働いて、もう少し經濟狀態をよくしたいと思ひますが私自身がその日の生活に逐はれてゐる位で御座いますので、思ふばかりで手が屆きませんのです。せめて少しづゝでも稿料をお拂ひする位には賣りたいのが私の望みなのですが、賣ることゝ本當にいゝ雜誌をこしらへることゝは兩立しませんので――もつとも今の處ではよくて賣れないのではありませんが――まあ現在のまゝでとにかく毎月發行を續けて行く事が出來さへすればよいと思ひます。そんな狀態ですから何卒直接購讀者の方で前金切れの方はお拂ひ込み下さいますやうにお願ひいたします。

□大阪毎日新聞へ「雜音」として今書いてゐますのは私としては非常に自分でもいやでたまらないものです。もつと〳〵書けるつもりで居りましたのですが十分一も書けません。何れまとめて出します節にはもう少し自分で滿足の出來るやうに書きたいと思ひます、今讀ん

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

で頂いてゐる方にはどうか今書いてゐる方は默つてゐて頂きたいのです。本當におはづかしいものですから。

□野上さんがこれから本號にお出し下すつた題で續けていろ〳〵なものを書いて下さるさうで御座います。來月號は哥津ちやんも久しぶりで書いて下さることになつてゐます。

□二月中旬頃か三月にはいつてからか、皆樣の御都合のよささうな時に在京の方々と一度集まつて見たいと思つてゐます。

□「清子」と仰云る方に申ます。何時ぞや下さいましたお手紙では、私にはまだはつきりとあなたの理解が出來ないと仰云つてお出になる點が分りません、お別れになつたのは御尤もな事に思へます。あなたとしてはそれより他に道は御座いませんでしたらうと思ひますがその後に何が殘つてゐるのでせう、何卒もう少し委しくあなたの、お心持なり、其處までになつた經過を具體的にお知らせ下さいませんか。

□來月號からは、今月内には皆樣のお手許に屆く位に早く編輯いたしますつもりです。何卒、今月號の後れましたことをお許し下さいまし。

新刊紹介

社會的個人主義　大杉榮著

これは大杉氏が「生の闘爭」出版後一ヶ年間の諸論文を集めたものであります。社會的個人主義と云ふのは「各個人の個性の多種多樣なる自由な發達が、社會組織の第一條件であり、社會進化の第一要素であるべき事を主張する、一社會的學説」ださうでございます。內容は「個人主義と勞働運動」「現代社會觀」「男女問題」「個人と社會」と云ふやうなミダシの下に氏の熱烈、眞摯な論議が最も徹底的に披瀝せられてゐます。只だ遺憾なのは雜誌の上で一度通過したものが御上の干渉で抹殺されてゐることです。今この書の結論とも見做れる「近代個人主義の諸

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

相」から數節を引照して見ます。

「―近代の思想界に於ける固有の意味の個人主義は、全く内にのみ向ふ心理的態度に陷って了ったのであるが、そして其處から心理的個人主義の名を與へられ得るのであるが、それとは別に、猶外に向ふ社會的個人主義がそれと並行して存在した事を忘れてはならない。……此の個人主義は、ミルがその「自由論」の題辭として選んだフンボルトの次の言葉をそのモットオとする。

「此等の中に說かれたる一切の議論の歸着する大原則、主要原則は、各人が最も豊富なる多樣多種の發達を遂げん事の絕對的價値である。」

即ち此の種類の個人主義は、一切の個人が社會の中に互に調和しつつ發達し、其の多樣多種なる事が却つて文明の富と美との保證になると信じてゐる。

彼等は、秩序と統一と調和とを原則とする理性を信ずる合理主義者である。彼等は、社會的正義の實現さるべき事を信ずる人道主義者である。極めて廣い意味で社會主義者である。個人と社會を分離せしめず、又對立せしめず、個人を以て社會の一要素なりと爲し、部分が全體と調和すると見做す所にその社會的個人主義の名稱を與へられる。」氏は心理的個人主義が今日の社會組織に對する客觀的智識を缺き、社會的個人主義が稍もすれば外にのみ向つて社會組織に對する主觀的感情を缺くことを遺憾とし、それ等を合體した上に生れて來る新個人主義を力說しようとしてゐられるやうに思はれます。そしてこれは「平面的に見れば心理的個人主義と社會的個人主義との融合であり、そして又立體的に見れば先きの第一期個人主義(個人が社會を支配して、その夢想する所に從つて社會を改造せんとする雄々しき叛逆)と第二期個人主義(一切の努力を無益であると觀念し、社會的定命と桎梏との前に、飽くまでも敵意を抱きながら、それと戰ふ事を餘儀なく斷念した永久に不服從のしかし又永久の敗北者)との調和である。更に言葉を換へて云へば、第一期個人主義がその後種々なる方面の經驗と智識とを蓄積

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

して、新しき内容を以て復活し來たつたものである。」

この書は昨年末に現はれた最も價値ある論集でありま
す。私どもは深い尊敬さ感謝を以つて大方の兄弟姉妹に
この書を推薦したいさ思ひます（定價九十錢新潮社發行）

農民の言葉（福田正雄詩集）

「最も庶民的なる、平明純一の言葉がこの一卷に集め
らる、そして、そこに農民生活の眞實な告白がある。鮮
かな民族の使命がある。大いなる詩人のよろこびがある。
表現せられたる感激はあらゆる人々の胸裏に共鳴し、民
族の新生命を受胎せしめるであらう。」さ純朴な口語體の
詩集である。かくの如き詩人を有つ農村は幸福である。
（東京府下豊多摩郡南郊堂書店定價五拾錢）

神秘主義者の思想と生活（吉江孤雁著）

外國の神祕主義者さして日本人の耳に親しんでゐるも
のに、スヱデンボルグ、ヤコブベーメ、キリヤム、ブレ
ーク、マアテルクンク、近くは又グリヤースンなぞ云ふ人
々がある。この書は徒にそれ等の人々の斷片皮層な研究
に落ち入らず、マアテルリンク一人をして代表せしめ、
彼の心理、生活さ藝術、彼の運命観、生命觀なぞが理解
ある筆路によつて、尤も秩序的に論じられてゐる。著者
は又序論に於て神祕主義者が徒に現世を厭ひ、孤獨隱遁
の生活のみを送るものでないことを大に辨護されてゐ
る。（牛込西五軒町天絃堂、定價五拾錢）

女性中心說

（レスター、ウオード著、堺利彥解說）

レスター、ウオードは米國の社會學者であります。そ
の純正社會學の中の一編を解說したものであります。私
はまだ詳しく讀んで見ませんが、これは是非よんでおい
てよいものさ信じます。何れ私も讀んでがら來月號で感
想位は述べたいさ思つて居ります。（正價七拾五錢牧民社
發行）

童貞（山崎俊夫著）

「童貞」「夜の鳥」「夕化粧」「きさらぎ」等の數篇の小說を
まさめたものであります。氏を最もよく知つてゐる三田

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

文學の人は「齢若く眉目美はしき少年がかたみに慕ふ戀ならぬ戀物語、そは宛然夕暮の薄明に縺く草双紙か、さなくば土藏の奥に秘められし古き繪巻物の類にてもあるか、その惱ましさ、美はしさ、げに一夜の魔の夢にも似通ひたり」さ云つてゐます。現に異常に微妙な感覺さ情緒をもつて書かれた美しい小説です、（四方堂發行定價壹圓）

狂犬　厨川白村著

近頃もつて甚だ痛快な本であります。巻頭に「かりに狂犬のこゝろもちになつて世の人を見たならば、かくもあらうかさ想つて書いて見た」さ著者は云つてゐます。これを讀む人は誰れしも漱石氏の猫を聯想させられますが、マルッキリ異つた味のするものです。狂犬は遺憾なく、極めて露骨に生一本な調子で痛烈に吠えて俗物の心膽を寒からしめてゐます。かう云ふ狂犬がドン〱ふえて癪に障はる奴にグン〱さ咬みついたら、さぞ心持がいゝだらうさ思はれます。作者は世道人心を益する爲めさ云ふやうなことを云つて居られますが、狂犬式にイッソ攪亂さ云つた方が適當かさ思はれます。尙巻末に附録として短篇七章の譯文が收められてゐます。讀者諸姉に一讀をおすゝめいたします。（大日本圖書株式會社定價七拾五錢）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

雜誌規定

■毎月一回一日發行
■定價一册金貳拾五錢（郵稅壹錢五厘）
■前金購讀料（四ヶ月分）壹圓（六ヶ月分）壹圓五拾錢（八ヶ月分）貳圓（十ヶ月分）貳圓五拾錢（一ヶ年分）參圓
■廣告料（一頁）特三十五圓、一等二十圓、二等十五圓、三等十圓、（半頁）七圓
■振替貯金口座は（東京二一一一六靑鞜社）に拂込まれたし。
■郵券代用は一錢五厘切手に限る（但し一割增のこと）。
■編輯事務、補助團會費拂込は靑鞜社へ。
■廣告申込、交換廣告は日月社へ。
■圖書、雜誌交換、購讀に關する一切の事務は日月社へ。
■原稿〆切期日は毎月十日限とす

大正五年一月卅日印刷納本
大正五年二月一日發行

禁轉載

編輯兼發行人　東京市小石川區指ヶ谷町九十二番地 靑鞜社內　伊藤野枝
印刷人　東京市京橋區弓町十三番地　柴田杠一郎
印刷所　東京市京橋區弓町十三番地　千代田印刷株式會社

發行所　東京市小石川區指ヶ谷町九十二　靑鞜社　振替東京二一一一六番
發賣所　本郷區元町二丁目廿五　日月社　振替東京二八九一四番

大賣捌　東京堂

〔平明〕COSMOPOLITAN 改題

二月號

目次

産む自由と産まぬ自由……堺利彦

フランシスコフエラアと
近代學校……………………辻潤

首が飛ぶ……………………中村一義

晩れ行く日…………………ゆたか

所謂生意氣とは何ぞや……荒川義英

女性中心說と坑夫…………同

餌食…………………………田戸正春

天上から……………………幸太

短歌…………………………本山俊助

當面の問題…………………幸太

定價一部金五錢

下谷區茅町二丁目拾番地
平明社發行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

藝文と學科

二月號

定價二十五錢 郵税二錢

■新しき道德……西村伊作

□性の二次的特徴……野村七録

□ゲーテの色彩學……小川政修

□宇宙の構造……兒玉昌

■夢の話……杉山元治郎

■家鴨……山野虎一

■Beyond the Sea……陶山務

マックス・スティルネル

■自由と所有

辻潤譯

近代個人主義者の第一人者にしてニイチエイブセンを刺衝し創成したるマックス・スティルネルの思想の眞髓は最も精到なる洞察と緊密なる同情と細心なる理解とを以て譯出されたり四十餘枚の大論文にして正に新春文壇の最大提供たらん

□長詩二篇……長與善郎

□無明（長篇小説）加藤一夫

□新生……ダンテ原作 中山昌樹譯

■偶然と必然……景山哲雄

■新年の文壇……S・T・K・

■押畫……セザンヌ白畫像其他澤山

■エトマンドの犯罪

シエクスピアの研究……秦豐吉

發行所 東京市牛込區矢來町三番地 交響社

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

昭和45年6月15日発行　【第10回配本】

青鞜第6巻　2月号

編著者　平塚らいてう

発行者　藤原正人

発行所　(株)明治文献

印刷　江明印刷

製本　(株)三高製本

【分売はいたしません】　定価 4,500円

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
PL
756
.B45
V.6
no.2

53 126CO XL 407
04/09 30016-162 UR
HF Group

University of Colorado at Boulder
U18304 6746602

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

明治四十四年八月二十八日第三種郵便物認可　第六卷
大正三年二月一日發行（每月一回一日發行）第二號　青鞜

ASN
PL
756
W6S45
v.6
1916

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER